



182×261mm

主催：西南学院グリークラブ

後援：福岡県合唱連盟福岡支部・朝日新聞社・KBC九州朝日放送・FM福岡放送

- I フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」 堀口大学：詩 南 弘明：曲
指揮：中野裕之 piano：吉富淳子
・小曲 ・輪踊り ・人の云うことを信じるな ・海よ ・秋の歌
- II イタリア民謡集 福永陽一郎：編
指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子
・CORE 'NGRTO ・FUNICURI - FUNICULA ・TORUNA A SORRIENTO
・LA DANZA ・SANTA LUCIA ・MATTINATA
- III 『ビートルズ・ナンバー』より 宮島将郎：編
指揮：中野裕之 piano：花田久美子
・DAY TRIPPER ・HERE, THERE AND EVERYWHERE
・GIRL ・MICHELLE ・ELAENOR RIGBY ・YESTERDAY
- IV 男声合唱組曲「雨」 多田武彦：曲 指揮：福永陽一郎
・雨の来る前 ・武蔵野の雨 ・雨の日の遊動円木
・十一月にふる雨 ・雨の日に見る ・雨

あたらしい一歩

今年は、大方の方がご承知のように、西南学院グリークラブにとって、大きなアニヴァーサリーであった60年の次の年に当たる。つまり、あえて云うならば、峠を越したと云う時期なのである。記念の年の成功が高い水準のものであったなら、そうであった分だけ、上り詰めた後は下降をたどるしかないのが世の常で、私も、そうした苦しい経験をいくつか持っている。それだけに、60周年の次の年である今年、学生諸君も勿論そうだったと思うが、私も、今年のグリークラブの踏み出す一歩が、今後のために非常に重要だと感じていた。そして重要だからといって肩に力を入れてしまえば逆効果であることも知っていたから、むつかしかった。

幸い、学生諸君は、むしろ平静に、着実にこの1年のスケジュールを消化してきたようだ。昨年のような華麗さが無いのは当然だとして、さりとして、落ち込んだ様子はさらさら無い。私は今年もグリーは成功だと思っている。

福永陽一郎

部長：Fred M. Horton

総務：百済 公支	会計：佐々木克己	指揮者：中野 裕之
人事：大中 豊	sub-会計：古谷 繁明	副指揮者：坂田 和英
M G：渡辺 秀樹	庶務：宮地 純	副指揮者：井手 敏彦
sub-MG：本村 智章	sub-庶務：永留 幸明	PL-T1：日高 隆
sub-MG：坂田 浩	sub-庶務：時枝 典生	PL-T2：井手 敏彦
	OB担当：中竹 茂美	PL-B1：川原 好治
		PL-B2：副島陽一郎

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
岡田 和夫 (81)	竹林 謙一 (81)	村上 和博 (81)	友永 史朗 (81)
川崎 正一 (81)	御厨 貞治 (81)	白田 明博 (81)	中野 裕之 (81)
江口 也文 (82)	古野 正善 (81)	松岡比呂史 (81)	野間 利博 (81)
日高 隆 (82)	古賀 章 (81)	上島 一高 (82)	武谷 昌次 (81)
渡辺 秀樹 (82)	野口 政行 (81)	川原 好治 (82)	副島陽一郎 (82)
中竹 茂美 (83)	田中幸太郎 (82)	坂田 和英 (82)	鬼塚 徹 (82)
永留 幸明 (83)	上田 信孝 (82)	児玉 篤明 (82)	佐々木克己 (82)
本村 智章 (83)	時枝 典生 (83)	坂田 浩 (83)	百済 公支 (82)
今村 隆徳 (84)	古谷 繁明 (83)	河野 丈則 (84)	大中 豊 (82)
中川 義朗 (84)	井手 俊彦 (83)	小川 格 (84)	宮地 純 (83)
藤田 一男 (84)	池田 健二 (84)	竹中 望 (84)	江藤 雅則 (84)
			田辺 裕巳 (84)



創立 62 周年 (1981 年度 : 昭和 55 ~ 56 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

我々82期生が最上級生となる年、最大の課題は部員数であった。4年生が卒業すると、我々3年生は13人いたが、2年・1年生は10人ずつで、今後の部の存続に対する危機感が強かった。この問題を解決すべく綿密な「勧誘マニュアル」を作成し、その年4月には30人のメンバーで30人の新入部員獲得に成功した。そして、1980年代の中頃から毎年多くの新入部員を獲得し、その後は100人を超える部員数を維持し続けることとなりました。

勧誘活動を始めるにあたっては、先ず部員の絆を深めることが肝要であるとして、我々は2月に貸切バスで別府温泉に行った。「旅行中は歌は禁止」との約束であったが、グリーンメンに「歌うな」と言うのは無理な話で、とうとう途中からは「歌いたくなったら一緒に歌う」という事にし、「演奏会に向けての練習」という呪縛から解放されての歌い放題の中で、絆を深める旅行になった。

勧誘活動にあたって大切に考えた考え方は、「部員数はクラブの1年間の運営を左右するので、勧誘活動には定期演奏会と同じだけのエネルギーを注ぐこと」「勧誘は下級生任せにせず、最上級生自ら率先して動くこと」であった。次年度以降の参考になるようにと大学ノート8ページに亘るマニュアルのコピーを永久保存版として部室に残したが・・・(原本は今でも、私の手許にある)。勧誘ポスターは絵の得意な渡辺秀樹君(82期)が原画を担当、パソコンの普及していない当時、カラーポスターの多量作成は大変であったが、このポスターを大学周辺に大量に貼りまくった。この時は、副島陽一郎君(82期・永眠)所有の「プリントごっこ」が大活躍した。一方ペンキを使用していた横断幕は見事な出来栄であったが、担当した鬼塚徹君(82期)はペンキ溶かしに使ったシンナーの中毒(?)で、その後の関学とのジョイントに出られなくなってしまった。

勧誘活動だけでなくこの年は、3月に関学と、8月には同志社とのジョイントを行なった。

定期演奏会は、この年**30回目**の節目を迎え、昭和56年12月12日に郵便貯金ホールで開催された。学生指揮者の川原好治が多田武彦作曲の「中勘助の詩から」と「黒人霊歌」を指揮、賛助出演の西南シャントゥールが志渡澤亨氏(57期)の指揮で「柳河風俗詩」を演奏した。客演の福永陽一郎先生は、男声合唱曲「島よ」と北村協一編曲の「The Student Prince」の2ステージを指揮された。ピアノ伴奏は吉富淳子氏で、盛況の裡に節目の演奏会を終えた。

また、この年は、お客様に楽しんで貰えるような事にも色々取り組んだ年であった。現在、出身地の長崎で複数の合唱団の指揮者として活躍中の井手敏彦君(83期)が3年生だったので、彼にシャネルズの歌など当時流行っていた歌を男声合唱用に編曲してもらい、西南音楽会や色々な演奏会で歌ったり、お客様に楽しんで貰えるようなパフォーマンスをしたり、とにかく楽しく充実した1年であった。

記述者 川原 好治(82期)



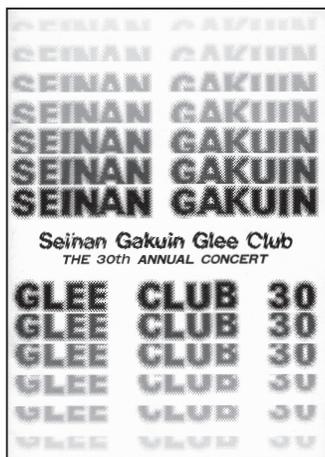
温泉旅行一城島高原で鶴見岳をバックに



部員の絆を深めるため別府温泉へ 海地獄



西南女学院クールベルフィーユ定期演奏会 賛助出演



210×299mm

主催：西南学院グリークラブ
 後援：福岡県合唱連盟福岡支部
 朝日新聞社
 FM 福岡放送
 KBC 九州朝日放送

- I 男声合唱組曲「中勘助の詩から」** 中 勘助：詩 多田武彦：曲
 ・絵日傘 ・椿 ・四十雀 ・ほほじろの声 指揮：川原好治
 ・かもめ ・ふり売り ・追羽根
- II 男声合唱曲「島よ」** 伊藤海彦：詞 大中 恩：曲 福永陽一郎：編
 指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子
- III 黒人霊歌** 指揮：川原好治
 ・Ev'ry Time I Feel The Spirit ・Swing Low, Sweet Chariot
 ・Ain'-a That Good News! ・Nobody Knows De Trouble I've Seen
 ・Soon Ah Will Be Done
- IV 西南シャントウール** 指揮：志渡澤 亨
男声合唱組曲「柳河風俗詩」 北原白秋：詩 多田武彦：曲
 ・柳河 ・紺屋のおろく ・かぎつばた ・梅雨の晴れ間
- V The Student Prince** S. Romberg：曲 北村協一：編
 指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子
 ・Golden Days ・Drinking Song ・Deep in My Heart, Dear
 ・Serenade ・Student March Song

部 長：古川 暢朗

運 営 系

総 務：時枝 典生
 人 事：宮地 純
 M G：本村 智章
 sub-MG：小川 格
 sub-MG：河野 丈則

会 計：古谷 繁明
 sub-会計：中川 義朗
 庶 務：永留 幸明
 sub-庶務：今村 隆徳
 sub-庶務：竹中 望
 OB 担当：藤田 一男

技 術 系

指揮者：川原 好治
 副指揮者：井手 敏彦
 PL-T1：日高 隆
 PL-T2：井手 敏彦
 PL-B1：坂田 浩
 PL-B2：宮地 純

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
江口 也文 (82)	上田 信孝 (82)	鬼塚 徹 (82)	大中 豊 (82)
日高 隆 (82)	田中幸太郎 (82)	川原 好治 (82)	佐々木克己 (82)
渡辺 秀樹 (82)	井手 俊彦 (83)	児玉 篤明 (82)	副島陽一郎 (82)
中竹 茂美 (83)	時枝 典生 (83)	坂田 和英 (82)	百済 公支 (82)
本村 智章 (83)	永留 幸明 (83)	坂田 浩 (83)	宮地 純 (83)
今村 隆徳 (84)	古谷 繁明 (83)	河野 丈則 (84)	竹中 望 (84)
中川 義朗 (84)	池田 健二 (84)	小川 格 (84)	田辺 裕巳 (84)
藤田 一男 (84)	安倍 伸一 (85)	脇濱 芳章 (84)	江藤 雅則 (84)
古賀 博英 (85)	池田 泰三 (85)	旭 康弘 (85)	神塚 泰史 (85)
篠田 理 (85)	郡 浩人 (85)	古賀 勇治 (85)	坂田 裕二 (85)
土谷 信男 (85)	田中 穂積 (85)	寺井 正典 (85)	福田 誠司 (85)
富永 正志 (85)	友納 靖史 (85)	橋本 卓磨 (85)	三瀬 賢次 (85)
	藤木 義尚 (85)	姫野 敏郎 (85)	綾部 武利 (85)
		森 浩一 (85)	
		三原 淳司 (85)	

西南シャントウール

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
徳永麟之助 内海 洋一	的野 恭一 志渡澤 亨	内海 敬三 矢野 達彦	鶴原 太郎 田中 義信
宮地 基次 乙藤 成美	徳永 和彦 福田 豊	松尾 淳郎 中嶋 恒生	横尾 和夫 松枝 康匡
山元 一憲 山下 悦朗	中尾 武史 徳永 武雄	首藤 純 樋口 一法	藤村 文彬 毛利 正明
大司 真 真名子文男	福田 治 高川 弘幸	奥平 勉 伊徳 諭	井上 昌則 渡部 光晴
山口 聡 吉村 龍彦	杉本 哲也 杉山 秀美	松岡比呂史	朔 正毅 野間 利博
木下 俊彦 川崎 正一	白土 典文 中村 信洋		



創立 63 周年 (1982 年度 : 昭和 56 ~ 57 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

我々83期生が入学、入部した年は丁度「グリー創立60周年」という節目の年であった。

右も左も分からぬ中で先輩達に言われるままに記念演奏会での、ロックオペラ「ジーザース・クライスト・スーパースター」の歌や振り付けを覚えるのに忙しかったことを思い出す。

今では恒例となっている福岡女学院とのメサイア演奏は、昭和55年5月に福岡女学院創立95周年記念演奏会に出演したことに端を発している。

83期生は8名と少なく、3年時にはグリーの部員数が30名足らずに減少し、気を揉んだが上級生の指導のもと強力に部員増強に取り組み、新入部員30名程を獲得して3年時はスタートした。

最上級生となる昭和57年の大仕事は、この年の2月に計画していた**第2回渡米親善演奏旅行**であった。2月に入ると2週連続の強化合宿を行ったが、折から流行のインフルエンザに部員の大半が感染し、満身に練習も行えないまま2月20日の出発の日を迎えた。それでも学生指揮者の井手敏彦(83期)以下30名のメンバーは意気揚々とアメリカの地を踏んだ。

サンフランシスコを皮切りに最終地のホノルルまで、現地の学生、住民の方々、そして福岡県人会や西南学院同窓会支部の皆様との触れ合いやアメリカ文化の体験等、有意義な時間を過ごすことが出来た。

帰国後の新学期、この年は35名の新入部員を迎え、どうにかメンバーも安定してきた。

6月2日の福岡男声四大学合同演奏会、7月12日には松山商科大学グリークラブとのジョイントを開催。その他各地の小・中・高校からの招待を受け訪問演奏会を活発に行った。

第31回定期演奏会は客演指揮者に福永陽一郎氏を迎え、昭和57年12月12日に郵便貯金会館ホールで開催した。学生指揮者の井手敏彦(83期)が、第1ステージの「世界民謡集」及び第3ステージの男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」を指揮、賛助出演の内海敬三氏指揮による西南シャントウールの「Sea Shanties」を間に挟み、福永陽一郎氏が第2ステージで男声合唱組曲「海鳥の詩」と、最終ステージでこの定演のメインであるオペレッタ「メリーウイドウ」を指揮した。「メリーウイドウ」はドイツ語の歌詞を暗譜で歌うことに加え、ステージ上でのフォーメーションもあり、練習段階からなかなかの苦労であった。衣装も欧州の男性をイメージするため、ステージコートの他に赤い蝶ネクタイに白いパンツ、白い靴とまるで七五三のような可愛い出で立ちとなったが、お客様の拍手喝采の内に無事演奏を終えることが出来た。

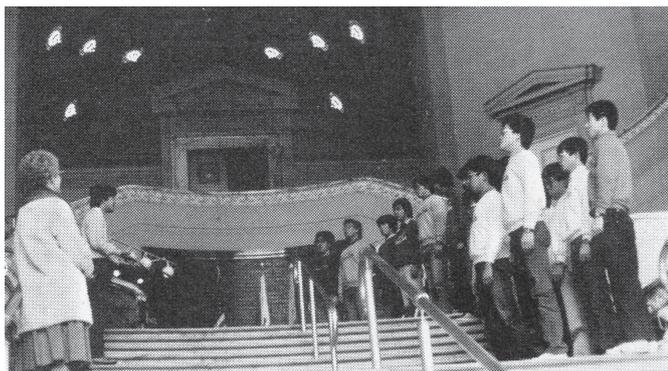


第31回定期演奏会

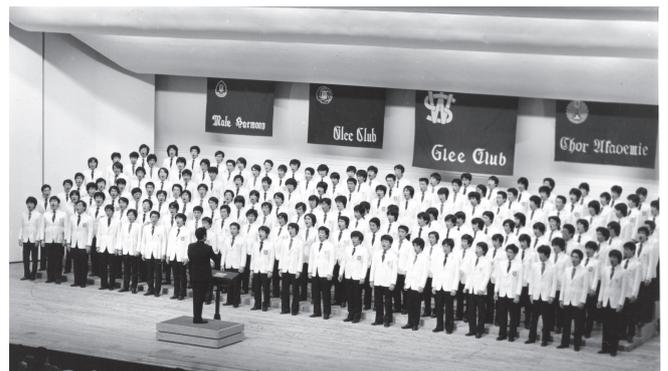
また、アンコールでは福永陽一郎先生のピアノ伴奏で、ラ・マンチャの男から「見果てぬ夢」を歌い、4年間のグリー生活の幕を閉じた。

わずか8名の83期生であったが、福永先生から「明るい仲良しグループ」「愉快で人懐っこく格別に親しんできた連中」と評していただけたことが何物にも変え難く有難いお言葉であった。この4年間に苦楽を共にした仲間達に心から感謝したい。

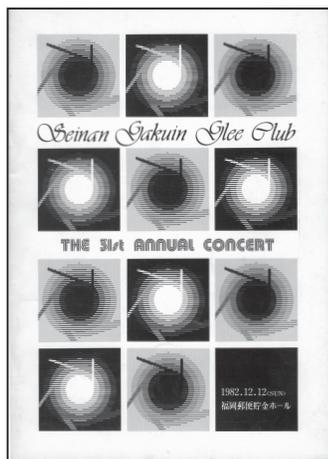
記述者 宮地 純(83期)



第二回米国演奏旅行 オークランド市庁舎にて



第15回福岡男声4大学合同演奏会(1982.6.2)



210×298mm

主催：西南学院グリークラブ
 後援：福岡県合唱連盟福岡支部
 朝日新聞社
 FM 福岡放送
 KBC 九州朝日放送

I 世界民謡集

指揮：井手敏彦

- ・ Sailing, sailing ・ Aura Lee ・ Marianina ・ カリンカ
- ・ Grandfather's Clock ・ Stdole Pumpa

II 男声合唱組曲「海鳥の詩」

更科源蔵：詩 広瀬量平：曲

指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子

- ・ オロロン鳥 ・ エトピリカ ・ 海鷗 ・ 北の海鳥

III 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」

尾崎喜八：詩 多田武彦：曲

- ・ 冬野 ・ 最後の雪 ・ 春愁 ・ 天井沢 ・ 牧場 ・ かけす 指揮：井手敏彦

IV 西南シャントウール

指揮：内海敬三 guitar：原田玲子

Sea Shanties

A. Parker & R. Shaw：編

- ・ Blow The Man Down ・ Shenandoah
- ・ What Shall We Do With The Drunken Sailor
- ・ Lowlands ・ The Drummer And The Cook

V Merry Widow

フランツ・レハール：曲 福永陽一郎：編

指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子

sop.：菊地由美 viol.：内海俊彦 electone：木原詩子

- ・ Ballsirenen ・ Vilija-Lied ・ Ach, Die Weiber! ・ Romanze ・ Finale

部長：古川 暢朗

指揮者：井手 敏彦

副指揮者：中川 義朗

総務：江藤 雅則

会計：藤田 一男

PL-T1：中竹 茂美

人事：小川 格

sub-会計：福田 誠司

PL-T2：池田 健二

M G：河野 丈則

庶務：竹中 望

PL-B1：坂田 浩

sub-MG：古賀 博英

sub-庶務：神塚 泰史

PL-B2：宮地 純

sub-MG：篠田 理

sub-庶務：藤木 義尚

Librarian：安倍 伸一

OB担当：綾部 武利

Librarian：三浦 淳司

TOP TENOR

- 江口 也文 (82)
- 中竹 茂美 (83)
- 本村 智章 (83)
- 今村 隆徳 (84)
- 中川 義朗 (84)
- 藤田 一男 (84)
- 安倍 伸一 (85)
- 古賀 博英 (85)
- 土谷 信男 (85)
- 富永 正志 (85)
- 松元 法彦 (85)
- 秋吉 英徳 (86)
- 井上 淳一 (86)
- 坂本 清貴 (86)
- 佐多 泰将 (86)
- 島谷 知宏 (86)
- 中村 和巳 (86)
- 西田 雅昭 (86)
- 細井 俊宏 (86)

SECOND TENOR

- 井手 俊彦 (83)
- 時枝 典生 (83)
- 永留 幸明 (83)
- 古谷 繁明 (83)
- 池田 健二 (84)
- 池田 泰三 (85)
- 郡 浩人 (85)
- 田中 穂積 (85)
- 友納 靖史 (85)
- 藤木 義尚 (85)
- 石井 俊明 (86)
- 稲井 義人 (86)
- 古瀬 哲也 (86)
- 中島 勝巳 (86)
- 松藤 信二 (86)
- 安川 和弘 (86)
- 山中 健史 (86)
- 善積 裕明 (86)

BARITONE

- 坂田 浩 (83)
- 河野 丈則 (84)
- 小川 格 (84)
- 脇濱 芳章 (84)
- 旭 康弘 (85)
- 篠田 理 (85)
- 寺井 正典 (85)
- 橋本 卓磨 (85)
- 三原 淳司 (85)
- 赤城 正晃 (86)
- 伊東 雅人 (86)
- 四季 正次 (86)
- 藤 寿 (86)
- 西間新一朗 (86)
- 平山 浩明 (86)
- 藤本伊久磨 (86)
- 二子石和也 (86)
- 保家 大司 (86)
- 八尋 研二 (86)
- 山本 晶博 (86)

BASS

- 宮地 純 (83)
- 江藤 雅則 (84)
- 竹中 望 (84)
- 田辺 裕巳 (84)
- 綾部 武利 (85)
- 神塚 泰史 (85)
- 古賀 勇治 (85)
- 福田 誠司 (85)
- 三瀬 賢次 (85)
- 阿部 哲司 (86)
- 一山 庸善 (86)
- 岡 潔 (86)
- 荻野 正幸 (86)
- 荻原 純一 (86)
- 高田 浩志 (86)
- 宮崎 英和 (86)
- 三輪 孝治 (86)

西南シャントウール

TOP TENOR

- 徳永麟之助 内海 洋一
- 宮地 基次 乙藤 成美
- 山元 一憲 山下 悦朗
- 大司 真 真名子文男
- 山口 聡 吉村 龍彦
- 木下 俊彦 川崎 正一

SECOND TENOR

- 的野 恭一 志渡澤 亨
- 徳永 和彦 福田 豊
- 中尾 武史 徳永 武雄
- 福田 治 高川 弘幸
- 杉本 哲也 杉山 秀美
- 白土 典文 中村 信洋

BARITONE

- 内海 敬三 矢野 達彦
- 松尾 淳郎 中嶋 恒生
- 首藤 純 樋口 一法
- 奥平 勉 伊徳 諭
- 松岡比呂史

BASS

- 鶴原 太郎 田中 義信
- 横尾 和夫 松枝 康匡
- 藤村 文彬 毛利 正明
- 井上 昌則 渡部 光晴
- 朔 正毅 野間 利博



創立 64 周年 (1983 年度 : 昭和 57 ~ 58 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和58年4月の大学入学式には新体制で参列した。我々85期生の入学時のグリークラブの新入部員は20名程であったが、この年は35名の新しい仲間を迎え、部員総数は一挙に88名の大所帯となった。ピオネ荘での歓迎コンパは2年前の救急車搬送事件の事もあり、自粛ムードで大した混乱もなく祝宴を終えた。

5月の学文会主催ソフトボール大会や、新歓ハイキングでの試合は見事惨敗した。6月には福岡四大学男声合唱合同演奏会に出演。その他西南音楽会、福岡女学院短大や鎮西女学園高校への訪問演奏会、この頃恒例となっていた筑紫少女苑慰問演奏会等、なぜか女子の園へと足を運ぶことが多かったが、その他の演奏会を断っていた訳ではない。

当時合宿は年に6回行っていたが、この年の新歓合宿は百道浜ビーチのセミナーハウスで行い、オフタイムのパート対抗演芸大会は蓋し見物であった。

この年、昭和58年の大きなイベントは**韓国演奏旅行**(7月26日~8月1日)であった。

伊都教会の友納牧師、小郡教会の下川牧師のご協力のもと、シート教授を団長としてグリーの一行は7月26日韓国金浦空港に向け飛び立った。出発前に付け焼刃ではあったが、韓国語の日常会話を学習した。2日目の明知大学の学生との交流会は、和気藹々とした歓迎ムード一色で、江南中央教会や、聖民教会でのコンサートを行い、1,000人規模の聴衆から暖かい拍手を頂いた。

コンサート直前には、我々に向かって昔の戦時の傷跡を思い知れる怒声も飛び、戦争を知らない我々世代には大きな衝撃であったが、多くの親日家の方々が慰めてくれた。

純福音中央教会でのコンサートは、グリーメンにとり忘れ難い演奏会となった。教会員数は約50万人、会場のチャペルは1万人以上を収容できるという大きさで、その超満員の聴衆の前で我々は歌った。押し寄せるような1万人の拍手の音は今も耳に鮮明に残っている。

また、夜を徹して行われる祈祷集会に参加する等、貴重な幾つもの体験をこの韓国演奏旅行を通して積むことが出来た。

9月~11月は3回の秋季合宿を行いながら、平尾小学校訪問や大学祭、中村学園大学クリスタルハーモニー定演への賛助出演が続いた。

第32回定期演奏会は昭和58年12月10日に福岡貯金会館で開催した。客演指揮の福永陽一郎氏が、第1ステージで本邦初演となる「MISSA Stella Maris」と第4ステージで、ミュージカル「NEW MOON」を指揮、ピアノ伴奏は吉富淳子氏であった。



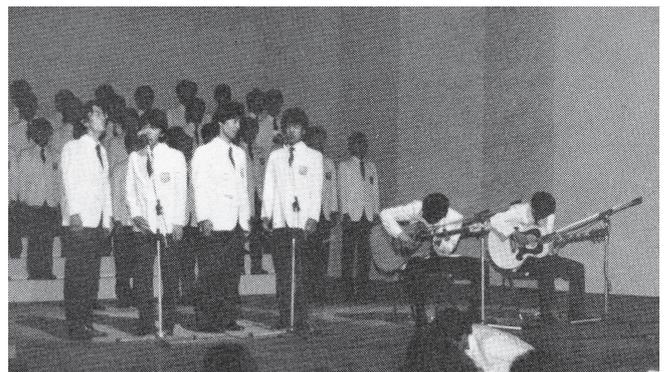
第 32 回定期演奏会

学生指揮者の中川義朗(84期)が、第2ステージで「Sea Shanties」と第3ステージで、伊藤 整作詩・多田武彦作曲の男声合唱組曲「吹雪の街で」を指揮したが、この2曲も感慨深い作品であった。4年生を送り出す寂しさや、感謝の思いが全てこの曲に集約されていた気がする。

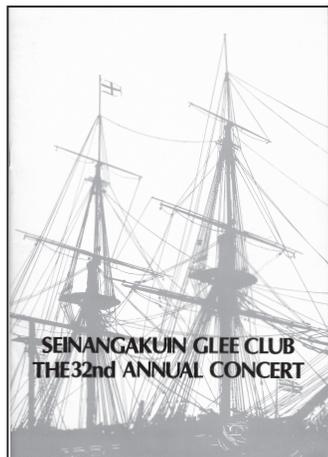
翌昭和59年3月の関西学院グリークラブとの交歓演奏会での、関学、西南合わせて180名の大合同合唱は、年度を締めくくるに相応しい素晴らしい演奏会となった。 記述者 篠田 理(85期)



新歓ソフトボール大会



西南音楽祭



210×298mm

主催：西南学院グリークラブ

後援：福岡県合唱連盟福岡支部・朝日新聞社・KBC九州朝日放送・FM福岡放送

I MISSA "Stella Maris"

P.Griesbacher：曲

指揮：福永陽一郎 organ：木野詩子

・Kyrie ・Gloria ・Credo ・Sanctus ・Benedictus ・Agnus Dei

II Sea Shanties

指揮：中川義朗

・Swansea Town ・Homeward Bound ・I've got Six Pence
・Shenandoah ・The Drummer And The Cook

III 男声合唱組曲「吹雪の街を」

伊藤 整：詩 多田武彦：曲

・忍路 ・また月夜 ・夏になれば

指揮：中川義朗

・秋の恋びと ・夜の霰 ・吹雪の街を

IV NEW MOON (musical)

指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子

O. Hammerstein II：詞 S. Romberg：曲 福永陽一郎：編

・Softly As In The Morning Sunrise ・Funny Little Sailor Man

・Wanting You ・Lover Come Back To Me ・Shout Hearted Men

部長：安徳 典光

総務：福田 誠司
人事：神塚 泰史
M G：古賀 博英
sub-MG：高田 浩志
sub-MG：山本 昌博
会計：綾部 武利
sub-会計：山中 健史

庶務：藤木 義尚
sub-庶務：赤城 正晃
sub-庶務：荻原 純一
OB担当：藤本伊久磨
Librarian：井上 純一
Librarian：稲井 義人

指揮者：中川 義朗
副指揮者：田中 穂積
副指揮者：友納 靖史
PL-T1：今野 隆徳
PL-T2：友納 靖史
PL-B1：篠田 理
PL-B2：三瀬 賢次

TOP TENOR

今村 隆徳 (84)
中川 義朗 (84)
藤田 一男 (84)
安倍 伸一 (85)
古賀 博英 (85)
土谷 信男 (85)
富永 正志 (85)
松元 法彦 (85)
井上 淳一 (86)
坂本 清貴 (86)
島谷 知宏 (86)
中村 和巳 (86)
細井 俊宏 (86)
岡村 秀夫 (87)
杉安 祐一 (87)
坂口 裕治 (87)
道家 正昇 (87)
中野 克彦 (87)
羽野 和弘 (87)

SECOND TENOR

池田 健二 (84)
池田 泰三 (85)
郡 浩人 (85)
田中 穂積 (85)
友納 靖史 (85)
藤木 義尚 (85)
石井 俊明 (86)
稲井 義人 (86)
古瀬 哲也 (86)
山中 健史 (86)
安川 和弘 (86)
善積 裕明 (86)
太田 智 (87)
木下 満裕 (87)
倉光 晴夫 (87)
小泉 尚史 (87)
佐川 竜一 (87)
島田 直 (87)
田中 賢司 (87)
中嶋 恒雄 (87)
村上 正道 (87)
村上 宗史 (87)

BARITONE

小川 格 (84)
河野 丈則 (84)
旭 康弘 (85)
篠田 理 (85)
寺井 正典 (85)
橋本 卓磨 (85)
三原 淳司 (85)
赤城 正晃 (86)
四季 正次 (86)
藤 寿 (86)
藤本伊久磨 (86)
二子石和也 (86)
保家 大司 (86)
八尋 研二 (86)
山本 昌博 (86)
市丸 智紀 (87)
小野 博文 (87)
金子 泰久 (87)
江田 秀史 (87)
高吉 裕司 (87)
日高誠一郎 (87)
平野 雅彦 (87)
牧之瀬雅明 (87)
矢野 英郎 (87)
友田 大作 (87)

BASS

江藤 雅則 (84)
田辺 裕巳 (84)
竹中 望 (84)
綾部 武利 (85)
神塚 泰史 (85)
古賀 勇治 (85)
福田 誠司 (85)
三瀬 賢次 (85)
一山 庸善 (86)
岡 潔 (86)
荻原 純一 (86)
高田 浩志 (86)
三輪 孝治 (86)
青柳 俊一 (87)
新崎 史明 (87)
一ノ瀬健二 (87)
大野 俊一 (87)
草野 龍也 (87)
神代 凡夫 (87)
中島 秀樹 (87)
藤後 竜也 (87)
藤田 太郎 (87)



創立 65 周年 (1984 年度 : 昭和 58 ~ 59 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

団員減少への危機感を覚える先輩方の熱心な勧誘活動により、我ら学年入部者は当初25名。最終年次は20名となるも、大所帯化する次世代の狭間に立たされ、多くの課題と一同真剣に向き合った。ランキンチャペルや学食に授業の合間入り浸り、諸先輩方から熱心に音取り発声の練習、更に西南〈合唱愛〉スピリットを心にもお腹にも一杯満たして頂く幸いな学年であった。

最初のステージは『関西学院グリークラブ・ジョイントコンサート』<3月26日・郵貯ホール>。我らの代よりパートリーダーを指揮者と同じ4年次が担う決断をした一因には、関学の歴史ある重厚な合唱・運営体制に以前より刺激を受けていたこともある。この日、関学113名、西南80名でのスタート。新学期、新入生約30名を迎え、『福岡男声四大学合同演奏会』<6月7日・市民会館>に臨む。合同ステージ「富士山」の客演指揮者が福永陽一郎氏であり、新入生を単独ステージに乗せ(当日103名)、合唱力強化を願い、選曲は難易度の低い「愛唱曲集」。数週間後には、明知実業専門大学女声合唱団35名が来日しての『日韓親善ジョイントコンサート』(6月19日・ランキンチャペル)。前年、緊張感満ちた(当時、日本語を公共の場では歌えない時代)韓国へ、特別に招待して下さった方々、学生らと共に、市内観光で国際交流にも努める。翌月、『立命館メンネルコール・ジョイントコンサート』<7月11日・郵貯ホール>開催。合同ステージ「日本民謡」の220名によるハーモニーは圧巻で、僅か数ヶ月間、4つもの合同演奏に臨む努力を惜しまずにつけてくれた全グリーメンへの敬意と共に、卒団後今に至るまで続く忘れがたき出会に感謝しつつ、熱き春夏の季節は幕を閉じた。

『第33回定期演奏会』に向け、秋冬はひたすら走り走りに走った。この日まで残ったメンバーは丁度100名。次年度は早稲田グリーとヨーロッパ演奏旅行計画があるため、客員指揮者・福永陽一郎氏より、「9つのフランス民謡」が選曲され、「月下の一群」と共に指揮をして頂き、氏の熱い指導の下に心を一つに歌い上げる。当時は四大学で歌った曲を定演に乗せるのが恒例だったが、新曲演奏を決断し、川崎洋(グリーOB)作詩「ゆうやけの歌」に取り組んだ。音楽的才能を与えられていない者さえ指揮者として支え、共に涙を流し、諸課題を乗り越えてくれた同期生には、感謝以外の言葉はない。その結束力があつたからだろうか…卒業20年を経た2006年。西南グリー在籍0名の危機を迎え、新チャペル建設のため旧チャペル取り壊しを知り、福田君ら85期が中心となり、世代を超えて西南グリーが思い出の詰まったチャペルに集うことを企画。最終的に諸先輩・後輩方の協力を得て、250名を超えるOBが一同に集結し、『ありがとうランキンチャペル』を開催。感謝の歌声と祈りとを奉げ、その後の新生グリー復活の一端を担う不思議な神の業を見せて頂いた。

最後に、定演パンフに祝辞を寄せて下さった多田武彦先生の言葉で締め括りたい。

「…私がまだ京都大学男声合唱団の学生指揮者だった頃、『関西には関学グリー、九州には西南グリーあり』と人々が口にしていた程、西南グリーの名声は鳴り響いていました。一度機会があれば西南の美しい歌声を聴いてみたいなあ、と思っていました。その時から30年がたった今秋、私の作曲した組曲『三崎のうた』を取り上げて頂くこととなり、これを機に学生指揮者が三浦半島へ取材に行った帰路、拙宅に立ち寄ってくれました。西南学院グリーの諸君がこの組曲の背景を、入念に理解しようと努力している態度に心から敬意を表した次第です。近年、メンバーもぐっと増えて、スケールが一段と大きくなったとのこと。聴く人の心に深い感動を与える素晴らし伝統を、力強く築きあげていって下さい。演奏会のご成功と、今後ますますのご発展をいのります。

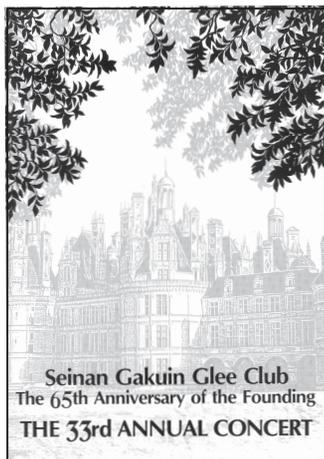
記述者 友納 靖史(85期)



創立65周年定演・最終ステージ 指揮:福永陽一郎氏



所狭しと壇上に並び、練習重ねたランキンチャペル



210×297mm

- I 男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」 川崎 洋：詩 湯山 昭：曲
指揮：友納靖史 piano：森高 啓
- II 9つのフランス民謡 福永陽一郎：編
指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子
・Aupres de ma blonde ・Frere Jacques ・Il etait une Bergere
・Alouette ・Fais dodod, Colas ・J'ai du bon tabac
・Sur le pont d'Avignon ・Au clair de la lune ・Vive l'amour
- III 男声合唱組曲「三崎のうた」 北原白秋：詩 多田武彦：曲
指揮：友納靖史
・丘の三角畑 ・白南風黒南風 ・海雀 ・雨中小景 ・鮎組
- IV フランスの詩による男声合唱曲集「月下の一群」 堀口大学：詩 南 弘明：曲
指揮：福永陽一郎 piano：吉富淳子
・小曲 ・輪踊り ・人の云ふことを信じるな
・催眠歌（海よ） ・秋の歌

部 長：安徳 典光	会 計：藤本伊久磨	指揮者：友納 靖史
総 務：山中 健史	sub-会計：金子 泰久	副指揮者：稲井 義人
人 事：保家 大司	庶 務：赤城 正晃	副指揮者：八尋 研二
M G：山本 昌博	sub-庶務：佐川 龍一	PL-T1：富永 正志
M G：安川 和弘	sub-庶務：中嶋 恒雄	PL-T2：田中 穂積
sub-MG：中野 克彦	OB 担当：羽野 和弘	PL-B1：四季 正次
sub-MG：牧之瀬雅明	Librarian：杉安 祐一	PL-B2：三瀬 賢次
	Librarian：平野 雅彦	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
安倍 伸一 (85)	池田 泰三 (85)	旭 康弘 (85)	綾部 武利 (85)
古賀 博英 (85)	郡 浩人 (85)	篠田 理 (85)	神塚 泰史 (85)
土谷 信男 (85)	田中 穂積 (85)	寺井 正典 (85)	古賀 勇治 (85)
富永 正志 (85)	友納 靖史 (85)	橋本 卓磨 (85)	福田 誠司 (85)
松元 法彦 (85)	藤木 義尚 (85)	三原 淳司 (85)	三瀬 賢次 (85)
秋吉 英徳 (86)	石井 俊明 (86)	赤城 正晃 (86)	一山 庸善 (86)
井上 淳一 (86)	稲井 義人 (86)	四季 正次 (86)	岡 潔 (86)
坂本 清貴 (86)	古瀬 哲也 (86)	藤 寿 (86)	荻野 正幸 (86)
島谷 知宏 (86)	山中 健史 (86)	二子石和也 (86)	荻原 純一 (86)
中村 和巳 (86)	安川 和弘 (86)	保家 大司 (86)	高田 浩志 (86)
細井 俊宏 (86)	善積 裕明 (86)	八尋 研二 (86)	藤本伊久磨 (86)
岡村 秀夫 (87)	太田 智 (87)	山本 昌博 (86)	三輪 孝治 (86)
坂口 裕治 (87)	木下 満裕 (87)	市丸 智紀 (87)	新崎 史明 (87)
杉安 祐一 (87)	倉光 晴夫 (87)	小野 博文 (87)	一ノ瀬健二 (87)
道家 正昇 (87)	佐川 龍一 (87)	金子 泰久 (87)	大野 俊一 (87)
中野 克彦 (87)	田中 賢司 (87)	江田 秀史 (87)	神代 凡夫 (87)
羽野 和弘 (87)	中嶋 恒雄 (87)	日高誠一郎 (87)	藤後 竜也 (87)
村上 正道 (87)	村上 宗史 (87)	平野 雅彦 (87)	藤田 太朗 (87)
伊藤 伸也 (88)	井手 克己 (88)	牧之瀬雅明 (87)	大久保 近 (88)
鬼木興一郎 (88)	大谷 文男 (88)	矢野 英郎 (87)	権藤 進一 (88)
榎田 尚郎 (88)	甲斐 恵介 (88)	青野 祐紀 (88)	中島 敦雄 (88)
野上 敏 (88)	佐伯 幸博 (88)	緒方 良英 (88)	森 貞好 (88)
浜田 直樹 (88)	南 敏男 (88)	甲斐 竜治 (88)	
平島 広伸 (88)	森下 誠 (88)	勝永 敏也 (88)	
藤島 整 (88)		徳永 豊治 (88)	
		中村 和人 (88)	
		福山 哲雄 (88)	
		吉永 博紀 (88)	
		脇崎 輝喜 (88)	



創立 66 周年 (1985 年度 : 昭和 59 ~ 60 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

我々新体制は、翌年7月に計画されていたヨーロッパ演奏旅行の実現に向けて活動を集中した。ヨーロッパ遠征の目的は、ヨーロッパ演奏旅行で会得した音楽性を帰国後の演奏に如何に表現していくかにあった。

昭和60年の春休みは、後に控えた関学グリーとのジョイントやヨーロッパ演奏旅行に向け厳しい合宿を実施した。3月25日4年生が卒業した後の新メンバーで恒例の関学グリーとのジョイントに臨んだ。グリーは「ルネサンス歌曲集」「合唱による風土記-阿波」を学生指揮者稲井義人(86期)で演奏したが、完成度の高い良い演奏が出来た。4月の新入部員勧誘活動にも熱を入れ、多くの新人を獲得しグリーは総勢100名を超える大所帯となった。

5月は「菅原洋一九州に歌う」に賛助。6月の福岡男声四大学合同演奏会では、学生指揮者としては初のミュージカル「マザーグースの歌より」に取り組んだ。歌と振り付けを上手く行なうべく、2~4年生でのステージとなったが演奏会の最後を飾るに相応しい演奏をすることが出来た。合同演奏は荒谷俊治氏の指揮で「アイヌのウポポ」を歌った。荒谷氏はヨーロッパ遠征を控えた西南グリーのために、ヨーロッパでグリーが歌う「Die Nacht」をアンコールに取り上げ、四大学の出演者全員でグリーの成功を祈念してくれた。

この後はひたすらヨーロッパ演奏旅行に向けての練習を行なった。参加出来ないメンバーも一緒になり、異常と思えるまでの練習が毎日続いた。この成果がヨーロッパでの成功をもたらした。そしてヨーロッパ遠征メンバー56名は7月11日福岡を出発した。

帰国後は定期演奏会に向けて新曲2曲の練習に入った。福永陽一郎氏から渡された楽曲は2つとも大曲であり、4つのステージの曲どれをとっても最終ステージになり得る程であった。

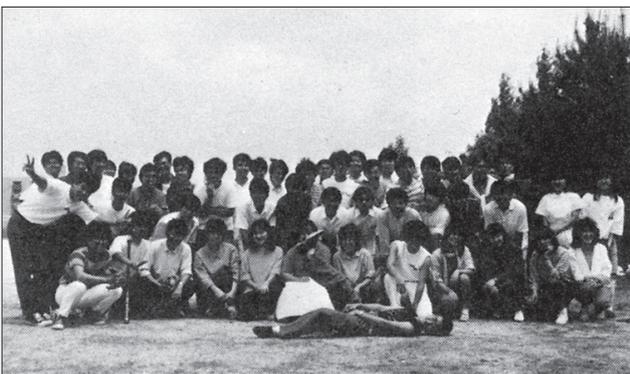
11月9日北九州厚生年金会館において「西南学院グリークラブ&パイプオルガン」のコンサートが開催され、我々は1年~4年までのグリーフルメンバーで初の本格的なステージをもった。

第34回定期演奏会は12月14日に福岡郵便貯金会館ホールで開催した。「レクイエム~バリトン独唱と男声合唱のための」のバリトン独唱には、早稲田大学グリークラブOBで福岡高校OBの山本健二氏を初めてお迎えした。

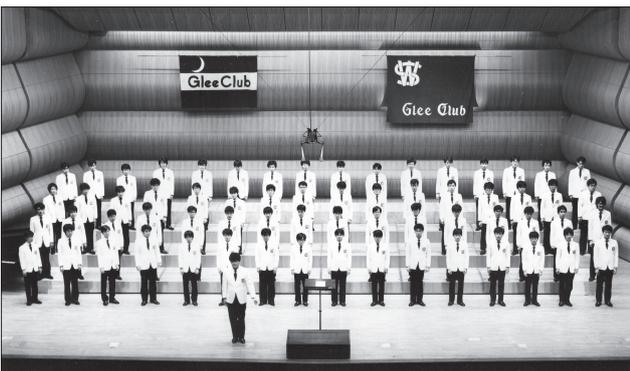
ある意味で西南グリーの真価を問われる演奏会であったが、ヨーロッパ演奏旅行を通して身に付けた音楽性を十分に表現できた最高の定期演奏会であった。

この1年正にグリーにどっぷりと漬かり、同時にグリー冥利につきた1年であったと言えよう。

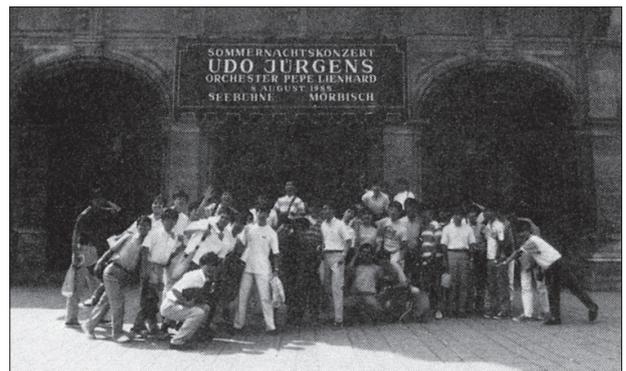
記述者 稲井 義人(86期)



新歓ソフトボール大会



関学グリー交歓演奏会



ヨーロッパ演奏旅行



210x297mm

- I ZIGEUNERMELODIEN** 指揮：福永陽一郎 piano：久邇之宜
 Adolf Heyduk：詩 Antonin Dvorak：曲 福永陽一郎：編
 ・わが歌ひびけ ・きけよトライアングル ・森はしづかに
 ・わが母の教えたまひし歌 ・弦を整えて ・軽い着物 ・鷹は自由に
- II 合唱による風土記「阿波」** 三木 稔：曲 指揮：稲井義人
 ・たいしめ（鯛締） ・麦打ち ・もちつき（餅搗） ・水取り ・たたら（踏鞴）
- III 「マザーグースの歌」より** 谷川俊太郎：詩 青島広志：曲
 指揮：稲井義人 piano：勝代和子
 ・ばらはあかい ・ソロモン・グランディ ・ミルクよバターに
 ・くぎがふそくで ・ほねとかわのおんながいた ・ゴータムむらの
- IV レクイエム ～バリトン独唱と男声合唱のための～** 三木 稔：曲
 指揮：福永陽一郎 piano：久邇之宜 baritone: 山本健二
 ・前奏曲 ・第一楽章 ・第二楽章 ・第三楽章
 ・第四楽章 ・第五楽章

部長：安徳 典光	会計：金子 泰久	
	sub-会計：甲斐 竜治	
総務：市丸 智紀	庶務：	指揮者：稲井 義人
人事：道家 正昇	sub-庶務：藤島 整	副指揮者：村上 正道
M G：牧之瀬雅明	sub-庶務：南 敏男	PL-T1：井上 淳一
M G：日高誠一郎	OB担当：大久保 近	PL-T2：石井 俊明
sub-MG：緒方 良英	Librarian：榎藤 進一	PL-B1：四季 正次
sub-MG：平島 広伸	Librarian：中村 和人	PL-B2：藤本伊久磨

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
秋吉 英徳 (86)	石井 俊明 (86)	赤城 正晃 (86)	一山 庸善 (86)
井上 淳一 (86)	稲井 義人 (86)	四季 正次 (86)	岡 潔 (86)
坂本 清貴 (86)	古瀬 哲也 (86)	藤 寿 (86)	荻野 正幸 (86)
島谷 知宏 (86)	山中 健史 (86)	二子石和也 (86)	荻原 純一 (86)
中村 和巳 (86)	安川 和弘 (86)	保家 大司 (86)	高田 浩志 (86)
細井 俊宏 (86)	善積 裕明 (86)	八尋 研二 (86)	藤本伊久磨 (86)
岡村 秀夫 (87)	太田 智 (87)	山本 昌博 (86)	三輪 孝治 (86)
坂口 裕治 (87)	木下 満裕 (87)	市丸 智紀 (87)	新崎 史明 (87)
杉安 祐一 (87)	倉光 晴夫 (87)	金子 泰久 (87)	一ノ瀬健二 (87)
道家 正昇 (87)	田中 賢司 (87)	江田 秀史 (87)	大野 俊一 (87)
中野 克彦 (87)	中嶋 恒雄 (87)	日高誠一郎 (87)	神代 凡夫 (87)
羽野 和弘 (87)	村上 宗史 (87)	平野 雅彦 (87)	藤後 竜也 (87)
村上 正道 (87)	井手 克己 (88)	牧之瀬雅明 (87)	藤田 太郎 (87)
伊藤 伸也 (88)	大谷 文男 (88)	緒方 良英 (88)	大久保 近 (88)
鬼木興一郎 (88)	佐伯 幸博 (88)	甲斐 竜治 (88)	榎藤 進一 (88)
甲斐 恵介 (88)	平島 広伸 (88)	勝永 敏也 (88)	中島 敦雄 (88)
樫田 尚郎 (88)	南 敏男 (88)	徳永 豊治 (88)	森 貞好 (88)
高城 亨 (88)	川西 敏文 (89)	中村 和人 (88)	伊飼 康史 (89)
浜田 直樹 (88)	香田 知己 (89)	福山 哲雄 (88)	川口 和洋 (89)
藤島 整 (88)	染川 康輔 (89)	脇崎 輝喜 (88)	馬場 一久 (89)
梅崎 昌弘 (89)	高津 伸一 (89)	天野 正彦 (89)	御厨 一嘉 (89)
河島 雅弘 (89)	瀧田 稔 (89)	牛嶋 昭 (89)	邑本 真司 (89)
清田 真二 (89)	中山 誠一 (89)	古賀 洋 (89)	
城 保之亮 (89)	野口啓太郎 (89)	小林 健二 (89)	
徳永 正章 (89)	野口 雅裕 (89)	鈴木 久志 (89)	
那須 考児 (89)	藤野慶一郎 (89)	奈木野 治 (89)	
馬場 啓介 (89)		日高 泰治 (89)	
		秀島 慎也 (89)	
		宇都宮貴俊 (89)	



創立 67 周年 (1986 年度 : 昭和 60 ~ 61 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

ヨーロッパ遠征など華々しく慌しかった昭和60年は、第34回定期演奏会を最後の行事として4年生を送り出し、例年通り西南女学院クール・ベルフィーユの定演への賛助及び福岡女学院主催の「メサイア」賛助出演から、新体制での出発となりました。

新しい昭和61年は、3月18日に同じ福永陽一郎先生を顧問とする、法政大学アカデミー合唱団の福岡公演に賛助出演することから始まり、混声合唱の華やかな歌声が奏でられる中、我々は「草野心平の詩から」で雄々しい男声合唱の魅力と共に、前年のヨーロッパ遠征から学んだ表現力を、余すところなく披露しました。

新学期になり、多くの新入部員を迎えた新生・西南学院グリークラブにとって、この年は、母校西南学院の「創立70周年」にあたり、特に前半は記念式典・記念演奏会、高校同窓会や大学同窓会など、学院記念行事への参加に多くの時間を費やすこととなりました。特に、5月10日に福岡サンパレスで開催された記念演奏会では、学院の音系サークル総出演による合同演奏を、我々グリークラブの顧問でありOBでもある、福永陽一郎先生の指揮で「キリストの最後の7つの言葉」を演奏し、学院におけるその存在の高さを、ますます内外に知らしめたのでした。つまりこの61年は、前年のヨーロッパ演奏旅行に引き続き、春の法政大学アカデミー合唱団への賛助、夏の学院創立70周年記念演奏会など、例年以上に福永陽一郎先生と一緒に過ごせる時間が多く、たくさんの薫陶をいただける幸運に恵まれた1年となりました。

6月には第19回福岡四大学合同演奏会で新入部員がデビューを飾り、夏から秋にかけても、交流会や外部出演など多くの研鑽の場を経て、力を蓄えることが出来ました。

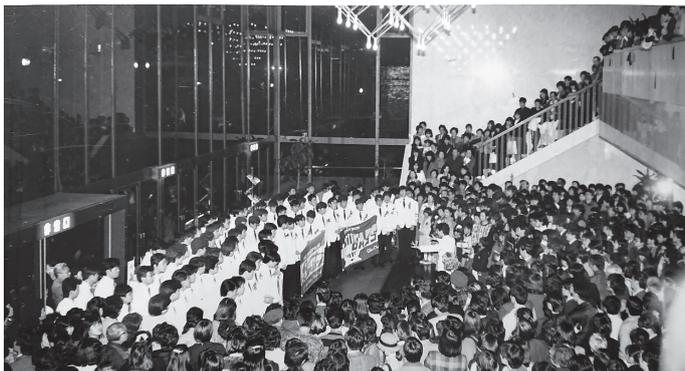
このように多くの経験をすることが出来た昭和61年の締めくくりとして、12月13日に福岡郵便貯金会館ホールで、**第35回記念定期演奏会**を開催しました。西南シャントウールに「クリスマスソング」で彩を加えて戴き、我々現役は「黒人霊歌」と、新実徳英作曲の男声合唱とピアノのための「祈りの虹」を福永陽一郎先生の指揮、久邇之宣先生のピアノ伴奏で、男声合唱組曲「草野心平の詩から」とミュージカル「ラ・マンチャの男」を学生指揮者 村上正道(87期)の指揮で演奏しました。

特に、前日のチャペルでの最後の練習を福永先生が早々に切り上げられ、「最高に仕上がっている。もうこれ以上の練習は要らない。明日の演奏会で「祈りの虹」が終わった後、僕が指揮棒を下すまで拍手が鳴らなかったら、それは君達が聴衆を最高に魅了した素晴らしい演奏をやったということだ。」と言われました。そして翌日、最後の演奏が終わった瞬間、福永先生が言われたことが現実のものとなった時には、何とも表現する事の出来ない感動を経験することが出来、短かった4年間の思い出を、何事にもかえられない素晴らしいものにして締めくくることが出来たのでした。

記述者 中野 克彦(87期)



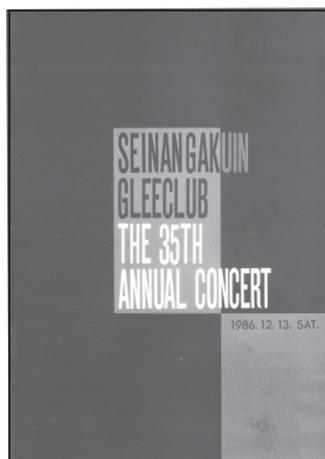
1986.6.28第19回福岡男声四大学合同演奏会



第35回定演後のロビーコール



2019年、100周年記念フェスティバル後の同期



210×297mm

- I Negro Spirituals** 福永陽一郎：編 指揮：福永陽一郎
 ・Deep River ・Honor! Honor! ・This Ol' Hammer!
 ・Mary's Boy Child Jesus Christ
 ・Sometime I Feel Like A Motherless Child ・Ain'-a That A Good News
- II 男声合唱組曲「草野心平の詩から」** 草野心平：詩 多田武彦：曲
 ・石家荘にて ・天 ・金魚 ・雨 ・さくら散る 指揮：村上正道
- III musical "Man of La Mancha"** 指揮：福永陽一郎 piano：久邇之宜
 Joe Darion：詞 Mitch Leigh：曲 福永陽一郎：編
 ・Man of La Mancha ・Dulcinea ・Little Bird Little Bird
 ・Golden Helmet of Manbrino ・The Impossible Dream
- IV 西南シャントゥール：Christmas Songs** 指揮：内海敬三 piano：三成寛子
 ・O Come, O Come, Emmanuel ・Oh, Holy Night ・Christmas Bride
 ・White Christmas ・O Come, All Ye Faithful
- V 男声合唱とピアノのための「祈りの虹」** 新実徳英：曲
 指揮：福永陽一郎 piano：久邇之宜
 ・炎 ・業火より ・(ヴォカリーズ) ・ヒロシマにかける虹

部長：安德 典光	会計：甲斐 竜治	指揮者：村上 正道
総務：勝永 敏也	sub-会計：日高 泰治	副指揮者：中村 和人
人事：榎藤 進一	庶務：藤島 整	副指揮者：鬼木興一郎
M G：緒方 良英	sub-庶務：古賀 洋	PL-T1：杉安 祐一
M G：平島 広伸	sub-庶務：中山 誠一	PL-T2：田中 賢司
sub-MG：川西 敏文	OB担当：城 保之亮	PL-B1：平野 雅彦
sub-MG：香田 知己	Librarian：伊飼 康史	PL-B2：藤後 竜也
	Librarian：瀧田 稔	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
岡村 秀夫 (87)	古瀬 哲也 (86)	市丸 智紀 (87)	荻原 純一 (86)
坂口 裕治 (87)	太田 智 (87)	金子 泰久 (87)	新崎 史明 (87)
杉安 祐一 (87)	木下 満裕 (87)	江田 秀史 (87)	一ノ瀬健二 (87)
道家 正昇 (87)	倉光 晴夫 (87)	日高誠一郎 (87)	大野 俊一 (87)
中野 克彦 (87)	田中 賢司 (87)	平野 雅彦 (87)	神代 凡夫 (87)
羽野 和弘 (87)	中嶋 恒雄 (87)	牧之瀬雅明 (87)	藤後 竜也 (87)
村上 正道 (87)	村上 宗史 (87)	緒方 良英 (88)	藤田 太郎 (87)
伊藤 伸也 (88)	大谷 文男 (88)	甲斐 竜治 (88)	大久保 近 (88)
鬼木興一郎 (88)	平島 広伸 (88)	勝永 敏也 (88)	榎藤 進一 (88)
甲斐 恵介 (88)	南 敏男 (88)	徳永 豊治 (88)	中島 敦雄 (88)
榎田 尚郎 (88)	川西 敏文 (89)	中村 和人 (88)	森 貞好 (88)
浜田 直樹 (88)	香田 知己 (89)	福山 哲雄 (88)	伊飼 康史 (89)
藤島 整 (88)	染川 康輔 (89)	天野 正彦 (89)	奈木野 治 (89)
清田 真二 (89)	高津 伸一 (89)	牛嶋 昭 (89)	野口 雅裕 (89)
城 保之亮 (89)	瀧田 稔 (89)	梅崎 昌弘 (89)	馬場 一久 (89)
徳永 正章 (89)	中山 誠一 (89)	古賀 洋 (89)	御厨 一嘉 (89)
馬場 啓介 (89)	野口啓太郎 (89)	小林 健二 (89)	邑本 真司 (89)
安藤 大祐 (90)	藤野慶一郎 (89)	鈴木 久志 (89)	岡部 常道 (90)
岩谷 郷磨 (90)	武末 竜久 (90)	日高 泰治 (89)	山本 幸伸 (90)
上杉 和也 (90)	西山 博文 (90)	秀島 慎也 (89)	
岡部 康夫 (90)	馬場 新二 (90)	嵩 豊 (90)	
梶山 正大 (90)	三宅 孝一 (90)	傳 喜臣 (90)	
藤川 裕介 (90)	山蔭 直樹 (90)	平島 周作 (90)	
真鍋 健一 (90)		森田 康弘 (90)	
		吉村 憲一 (90)	
		吉本 雅一 (90)	



創立 68 周年 (1987 年度 : 昭和 61 ~ 62 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和61年12月第35回定期演奏会を終え、最上級生になった我々88期生は、怒涛の時代と言われる昭和62年のグリー運営を担うこととなった。この時代は「財テクブーム」「NTT株」「ゴッホのひまわり」などに象徴される、いわゆるバブル的な出来事が最高潮に達した時代であり、また10月にはブラックマンデーと呼ばれる世界同時株安が発生、日本経済が「空白の10年間」と呼ばれる低迷期に足を踏み入れることになった変わり目の年でもある。そんな非常にエポックメイキングな年ではあったが、我々は例年通りにグリーの年間スケジュールをこなしていった。

昭和62年3月、隔年開催の関学グリーとのジョイント、西南グリーは圧倒的な関学グリーの二つのステージの間に挟まって、ホールコンサート初出演の学生指揮者 中村和人(88期)の指揮で組曲「北斗の海」を演奏した。関学とのジョイントは隔年開催であったため、前回ホームステイで自分の家に泊めたメンバーと再会できるのが良い点であった。当然ながら夜遅くまで旧交を温めたことは言うまでもない。

6月は第20回福岡男声四大学合同演奏会に出演した。我々西南グリーは、「男の踊りなんぞ見たくない」と言う一部の声を黙殺し、振付で「ディズニー名曲集」を初披露した。なお合同合唱は北村協一先生の指揮による「岬の墓」であった。

10月には松山商科大学グリークラブとのジョイントを開催し、西南グリーはより完成度を増した「北斗の海」を演奏した。当然のことながらホームステイを引き受け、初対面のメンバーと夜っぴて交流した記憶がある。後年この時の縁で後輩たちが松山で同グリーとの交歓演奏会を行なっている。

この年は、何かとお座敷が多く、5月5日には“さよならスポーツセンター”、6月13日には室内合唱団カンタビレ(フィンランド)との親善コンサート等、外部出演は10数回に及んだ。この他にも学内諸行事への参加そして合宿と、思えば頭からどっぴりグリー漬けの毎日であったことが今更ながら窺える。

第36回定期演奏会は昭和62年12月12日郵便貯金会館ホールで開催した。開場前から多くのお客様が列を作り、最終尾は九電記念体育館にまで及んだ。

そのプログラムは以下の通りであった。

1. ハーバード大学グリークラブのレパトリーから(指揮・福永陽一郎:ピアノ・久邇之宣)
2. 男声合唱組曲「北斗の海」(指揮・中村和人)
3. 「ディズニー名曲集より」(指揮・中村和人:ピアノ・久邇之宣)
4. ドイツ・リーダー・ターフェル・フェラインのリーダーシャツ名曲集(指揮・福永陽一郎)



第36回定演のロビーコール(1987.12.12)

中でも思い出深いのはアンコールであった。昭和60年ヨーロッパ演奏旅行の折、フランスのストラズブルでのヨーロッパ・カンタートにおいてアンコールとして、福永先生と久邇先生とのピアノ連弾で「トリッチ・トラッチ・ポルカ」を演奏、その時の感動と感激の再現を定演で行なえたことである。翌昭和63年まだバブル真っ只中に我々88期生は社会にとびたっていった。その後続く長い経済低迷の世相など誰が予想しただろう。

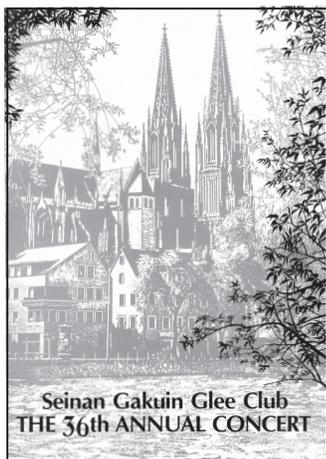
記述者 藤島 整(88期)



フェアウェルパーティにて(1986.3.1)



ヨーロッパ演奏旅行移動中(1985.7.14)



210×297mm

主催：西南学院グリークラブ
 後援：福岡県合唱連盟
 朝日新聞社・FM福岡
 KBC九州朝日放送・福岡市教育委員会

- I ハーヴァード大学グリークラブのレパートリーから** 指揮：福永陽一郎
 ・Kojo no Tsuki (荒城の月) ・Arirang (アリラン) piano：久邇之宜
 ・K'ang-ting Love Song (カン・ティンの恋歌) ・Loy Gratoing (満月祭)
 ・The E-RI-E (エリーの湖)～アメリカ五大湖の民謡から～ ・Red Iron Ore (赤い鉄鉱石)
- II 男声合唱組曲「北斗の海」** 草野心平：詩 多田武彦：曲 指揮：中村和人
 ・Bering-fantasy ・窓 ・風景 ・海 ・エリモ岬
- III 「ディズニー名曲集」より** 源田俊一郎：編 指揮：中村和人
 ・Alice In Wonderland ・I'm Late ・I Bring You A Song piano：久邇之宜
 ・Love Is A Song ・Heigh-Ho ・When You Wish Upon A Star
 ・Let's Go Fly A Kite
- IV ドイツ・リーダー・ターフェル・フェラインのリーダーシャッツ名曲集**
 指揮：福永陽一郎
 ・Das ist der Tag des Herrn (そは主の日なり) ・Der Jager Abschied (狩人の別れ)
 ・Annchen von Tharau (わが恋人よ) ・Du, du liegst mir im Herzen (君、恋し君)
 ・Treue Liebe (真実の愛) ・Die Lorelei (ローレライ)

部長：安徳 典光	会計：日高 泰治	指揮者：中村 和人
総務：高津 伸一	sub-会計：平島 周作	副指揮者：徳永 正章
人事：馬場 一久	庶務：古賀 洋	副指揮者：藤野慶一郎
M G：川西 敏文	sub-庶務：武末 竜久	PL-T1：檜田 尚郎
M G：香田 知己	sub-庶務：馬場 新二	PL-T2：南 敏男
sub-MG：安藤 大祐	OB担当：岩谷 郷磨	PL-B1：徳永 豊治
sub-MG：森田 康弘	Librarian：嵩 豊	PL-B2：権藤 進一
	Librarian：岡部 常道	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
伊藤 伸也 (88)	大谷 文男 (88)	緒方 良英 (88)	大久保 近 (88)
鬼木興一郎 (88)	平島 広伸 (88)	甲斐 竜治 (88)	権藤 進一 (88)
甲斐 恵介 (88)	南 敏男 (88)	勝永 敏也 (88)	中島 敦雄 (88)
檜田 尚郎 (88)	川西 敏文 (89)	徳永 豊治 (88)	森 貞好 (88)
浜田 直樹 (88)	香田 知己 (89)	中村 和人 (88)	伊飼 康史 (89)
藤島 整 (88)	染川 康輔 (89)	福山 哲雄 (88)	奈木野 治 (89)
清田 真二 (89)	高津 伸一 (89)	牛嶋 昭 (89)	野口 雅裕 (89)
城 保之亮 (89)	瀧田 稔 (89)	梅崎 昌弘 (89)	馬場 一久 (89)
徳永 正章 (89)	中山 誠一 (89)	古賀 洋 (89)	御厨 一嘉 (89)
馬場 啓介 (89)	野口啓太郎 (89)	小林 健二 (89)	邑本 真司 (89)
安藤 大祐 (90)	藤野慶一郎 (89)	鈴木 久志 (89)	岡部 常道 (90)
岩谷 郷磨 (90)	武末 竜久 (90)	日高 泰治 (89)	山本 幸伸 (90)
上杉 和也 (90)	馬場 新二 (90)	秀島 慎也 (89)	安部 智昭 (91)
岡部 康夫 (90)	三宅 孝一 (90)	嵩 豊 (90)	井上 重己 (91)
藤川 裕介 (90)	山蔭 直樹 (90)	傳 喜臣 (90)	田辺 太記 (91)
真鍋 健一 (90)	阿部 博久 (91)	平島 周作 (90)	馬場 秀樹 (91)
池田 幸助 (91)	大庭 宏明 (91)	森田 康弘 (90)	船場 直宏 (91)
角澤 淳行 (91)	大山 隆宏 (91)	吉村 憲一 (90)	本田 哲也 (91)
田中 邦典 (91)	角田 朋史 (91)	吉本 雅一 (90)	望月 浩和 (91)
田中 幸雄 (91)	田染 勉 (91)	江頭 孝三 (91)	
月成 重幸 (91)	馬場 清 (91)	小嶋 真一 (91)	
中西 英 (91)	原 淳二 (91)	坂井 克英 (91)	
中村 将治 (91)	原田 郁夫 (91)	田中 架扇 (91)	
西田 正則 (91)	樋口 洋 (91)	日高 理 (91)	
	平野 祥司 (91)	平本 憲一 (91)	
	宮崎 和善 (91)		
	山本 賢二 (91)		

できごと



1989年 **昭和天皇崩御** 第124代の昭和天皇が崩御され、皇太子明仁様が第125代天皇に即位。時代は昭和から平成へ(1月)。

1989年 **美空ひばり死去** 1965年のレコード大賞を受賞した「柔」(関沢新一作詞、古賀政男作曲)や「悲しい酒」(1966年、石本美由起作詞、古賀政男作曲)、真赤な太陽(1967年、吉岡治作詞、原信夫作曲)、「愛燦燦」(1986年、小椋佳作詞作曲)、「川の流れるように」(1989年、秋元康作詞、見岳章作曲)などのヒット曲がある昭和の歌謡界を代表する歌手美空ひばりさんが亡くなる(6月)。没後の1989年7月に国民栄誉賞を受賞。

1989年 **天安門事件発生** 世界的な民主化の流れの中、民主化運動の高まりに対して戒厳令が布告された中国北京市の天安門広場で民主化を求めるデモ隊に対し軍隊が武力鎮圧、多数の死傷者を出す事件発生(6月)。戒厳令布告に反対した趙紫陽共産党総書記は役職を解任され、死去するまで自宅軟禁下に置かれた。

1989年 **ベルリンの壁崩壊** ポーランド(9月)、ハンガリー(10月)での非共産党政権誕生に始まり、東ドイツのベルリンの壁崩壊(11月)、チェコスロバキアのビロード革命(11月)、ルーマニアのチャウシェスク体制の崩壊(12月)と東欧で民主化の動きが続く。

1989年 **よかトピア開催** アジア太平洋博覧会(よかトピア)が福岡市の百道浜の埋め立て地区で開催される。跡地は高級住宅地や福岡タワー、ドーム球場、IT企業のビル群へ。

1990年 **東西ドイツ統一** ドイツ民主共和国(東ドイツ)がドイツ連邦共和国(西ドイツ)へ加入、東西ドイツが統一(10月、ドイツ再統一)。1949年以來の分断の歴史に終止符。

1990年 **スペースワールド開園** 北九州市八幡東区の新日本製鐵(現:日本製鉄)八幡製鐵所の遊休地に宇宙をテーマにした遊園地(テーマパーク)スペースワールドが開園(4月)。1994年にはジェットコースター「流星ライナータイタン」がオープン。当時、世界最大級の傾斜角度とスピードで話題に。2018年1月1日をもって閉園。

1991年 **湾岸戦争勃発** 1990年のイラクによるクウェート侵攻をきっかけに、国際連合が多国籍軍(連合軍)を派遣、攻撃を開始(1月)。3月にイラク代表が暫定休戦協定を受け入れ。この戦争により計画されていた西南グリーの海外演奏旅行が中止となる。

1991年 **ソビエト連邦崩壊** ゴルバチョフ・ソ連大統領が辞任(12月)。ソビエト連邦が崩壊。その後「ロシア連邦」へ。

1991年 **バブル崩壊** 金融政策転換と総量規制による株価、不動産価格の低下により景気が後退。北海道拓殖銀行、日本長期信用銀行、日本債券信用銀行、山一証券、三洋証券など大手金融機関が不良債権の増加や株価低迷のあおりを受けて倒産。日本は「失われた10年」と呼ばれる時代へ。学生にとっては「就職氷河期」に突入。

1991年 **雲仙岳普賢岳火砕流** 1990年から噴火を続けていた長崎県の雲仙岳普賢岳で溶岩ドームが崩壊、大規模火砕流が発生(6月)。報道関係者や火山学者、警察、消防関係など43名の死者・行方不明者と9名の負傷者を出した。

1993年 **「55年体制」終焉** 自民党と社会党の対立構造からなる「55年体制」が終り、非自民・非共産連立政権の細川連立政権が誕生。閣僚を経験していない政治家の首相就任としては1947年の片山哲以来46年ぶり。その後しばらくは連立政権が続く。

1993年 **福岡ドーム完成** 日本初の開閉式屋根を持つドーム球場、福岡ドームが完成。福岡ダイエーホークスの本拠地に。

1994年 **携帯電話一般に** 携帯電話がレンタル方式から利用者による端末の所有が可能となり事業者間の競争が加速。携帯電話料金の低廉化が進み携帯電話の普及を後押し。

1994年 **大江健三郎ノーベル文学賞** 大江健三郎がノーベル文学賞を受賞(10月)。日本文学史上川端康成に続く2人目のノーベル文学賞受賞。

できごと

1995年 **野茂英雄投手日本人初の MLB新人王獲得** 近鉄からロサンゼルス・ドジャースに入団した野茂英雄投手が13勝6敗でメジャーリーグベースボール日本人初の新人王獲得。

1995年 **Windows 95発売** マイクロソフト社が Windows 3.1の後継として Windows 95を発売。インターネットが一般に普及。

1995年 **阪神・淡路大震災発生** 1月17日未明に兵庫県の淡路島北部沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3の地震が発生。神戸市の市街地を中心に近畿圏の広域で大きな被害が発生。神戸市須磨区から芦屋、西宮、宝塚の地域では30パーセント以上の家屋が倒壊。死者数は6,000人を超えた。

1995年 **地下鉄サリン事件** 宗教団体のオウム真理教によって東京で、営業運転中の地下鉄車両内で神経ガスのサリンが散布され、乗客及び乗務員、係員、被害者の救助にあたった人々に死者を含む多数の被害者が出た。

1996年 **ポケットモンスター発売** 任天堂が発売していた携帯型ゲーム機「ゲームボーイ」用のソフト「ポケットモンスター」が発売される(2月)。小学生を中心に大ヒットし、多くの続編が発売されているだけでなく、アニメ、キャラクター商品、カードゲームなどに展開され、日本国外でも人気に。

1996年 **「Yahoo!」日本でサービス開始** 米国の Yahoo!とソフトバンクの合併でヤフー株式会社設立(1月)、日本初のポータルサイト「Yahoo! JAPAN」サービス開始。

1997年 **三井三池炭鉱閉山** 福岡県大牟田市・三池郡高田町(現・みやま市)、熊本県荒尾市あり、江戸時代から採掘が行われ日本の近代化を支えてきた、「炭坑節」でも有名な三井三池炭鉱が閉山(3月)。三池炭鉱関連遺産はその後近代化産業遺産に認定され、2015年に世界文化遺産としての登録が決定。1960年に20万人を越えていた大牟田市の人口は閉山前の1995年には14万人に減少。なお、「炭坑節」の発祥は大牟田の三池炭鉱ではなく、田川市の筑豊炭田にあった「三井田川鉱業所伊田坑」とのこと。月が出たのは「三池炭鉱の上に」ではなく「三井炭鉱の上に」だそうである。

1998年 **松坂大輔投手ノーヒットノーラン** 全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)の決勝で横浜高校の投手松坂大輔が59年ぶりにノーヒットノーランを達成し優勝。

1999年 **ユーロ登場** EUの各機関によって公式に使用されているヨーロッパ単一通貨ユーロ登場。

1999年 **ホークス日本一に** プロ野球の福岡ダイエーホークスが福岡移転後初のリーグ優勝を達成。日本シリーズでは中日ドラゴンズを4勝1敗で下し、日本一となった。

1999年 **平成の大合併始まる** 自治体を広域化することによって行財政基盤を強化し、地方分権の推進を図ることを目的で政府主導で行われた市町村合併が始まる。2010年に終了。福岡県では糸島市、宮若市、みやま市が誕生。

2000年 **2000年問題** コンピュータ(ハードとシステム)の2000年問題の発生が注目されたが、大きな問題などは起こらずに無事年越しを迎えた(1月)。

2000年 介護保険制度が始まる

日本社会の急速な高齢化、超高齢化に伴う財政圧迫を避け、介護が必要な人を社会全体で支えるための公的なシステム、介護保険制度が始まる(4月)。



ドージャー記念博物館(1921年献堂)



創立 69 周年 (1988 年度 : 昭和 62 ~ 63 年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和62年の定期演奏会が終わると直ぐに年の暮れである。12月23日に恒例の福岡女学院主催「MESSIAH」演奏会を終え、昭和63年1月の初演奏は福銀本店大ホールで福銀創業110周年「'88 FIRST CONCERT」であった。

その年は、3月に訪米演奏旅行を予定していた為、2月16日から3日間の春季合宿を行なった。旅行に備え、「アメリカ通信」というプリントを作成し、団員の意識を高めていった。待望の**第3回訪米演奏旅行**は3月5日に出発した。2週間強でニューヨークを皮切りにハワイまでアメリカ大陸(合衆国)を横断した。

訪米の目玉は Robert Shaw 氏からレッスンを受けることであった。演奏旅行実行委員長の清田真二君(89期)が、高橋信雄先生(「MESSIAH」指揮者)の師匠である Robert Shaw 氏との交流が出来ないかと依頼し、事前に高橋先生と現地に乗り込んで直接折衝した結果、実現したものであった。

アトランタ・シンフォニーホールにて、ブラームスの「アルト・ラブソディ」のご指導を受けた。マエストロの指導に「イエス、サー」と我々は答え、ホールにその声はこだました。マエストロは少しギョッと驚かれて、何と言ったのかと質問された。西南グリーに同行された高橋先生が、“They say, Yes sir!”と同時通訳すると、マエストロはこんな風に呼ばれたのは初めてだと無邪気に声を出して笑われた。張り詰めた雰囲気から場は少し和み、「アルト・ラブソディー」のレッスンは進んでいった。約40分間であったが、ここで受けたレッスンは生涯忘れ得ぬ思い出である。

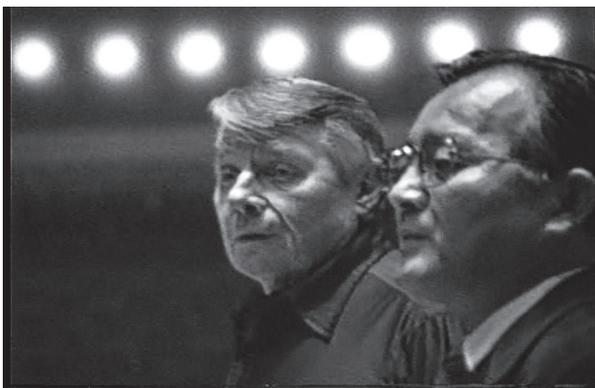
帰国後は4月15日に開催されるグリーの大先輩である徳永麟之助氏の「傘寿を祝う記念音楽会」の練習に追われた。徳永麟之助先輩はグリーのみならず、福岡での音楽界、とりわけ合唱界では重鎮で関係合唱団も多く、この演奏会には「福岡コール・フェライン」「西南プリエール」「福岡合唱協会」「西南シャントゥール」そして「西南グリー」が参加した。指揮者陣も石丸寛氏、福永陽一郎氏、荒谷俊治氏、平島邦央氏、内海敬三氏、等々豪華な顔ぶれであった。西南グリーは、福永陽一郎先生の指揮で男声合唱組曲「北斗の海」を演奏した。

学生指揮者の徳永正章君(89期)は8月から11月に向け強化合宿を3回行ない、**第37回定期演奏会**を12月10日に郵便貯金会館ホールにて実施した。客演指揮の福永先生のステージは、多田武彦の「柳河風俗詩」とシューベルトの「(オリジナル)男声合唱曲集」である。定演における陽ちゃんの“ただだけ”は久しぶりであり、一方のシューベルトはドイツ語で、音取りも難しく、久邇之宜先生からも厳しいチェックを演奏

直前までご指導いただいた。本番ではトップの藤川裕介君(90期)のソロの好演が際立った。定演終了後の打ち上げで福永先生から「今晚の西南グリーの演奏は日本中どこに出しても恥ずかしくない、スペシャルAクラス」とのお褒めのコメントを頂いたときはホッと胸をなでおろした。

今回、本稿を記すにあたり、レッスン・旅行・定演の各VTRを見返すと感激も新たであり、しっかりと記録を残しておいてくれた同輩、後輩に心から感謝を申し上げる次第である。

記述者 牛嶋 昭(89期)



Robert Shawマエストロと高橋先生



第37回定演本番直前まで
久邇先生からご指導



第37回定演口ピーコール
(指揮は89期徳永)



第37回定演レセプションでプレゼント
(左は暁子さん)



210×297mm

主催：西南学院グリークラブ 後援：福岡県合唱連盟・朝日新聞社・FM福岡・KBC九州朝日放送・福岡市教育委員会

- I 男声合唱組曲「柳河風俗詩」** 北原白秋：詩 多田武彦：曲指揮：福永陽一郎
 ・柳河 ・紺屋のおろく ・かきつばた ・梅雨の晴れ間
- II アメリカ民謡集** 指揮：徳永正章 piano：久邇之宜
 ・Ring de Banjo (A. Parker & R. Shaw) ・Gentle Annie (A. Parker & R. Shaw)
 ・Li'l Liza Jane (R. Hunter & R. Shaw) ・Carry me back to Old Virginny (加藤馨郎)
 ・Home on the Range (Wallingford Riegger) ・Oh! Susanna (福永陽一郎)
- III 男声合唱曲「島よ」** 伊藤海彦：詩 大中 恩：曲 福永陽一郎：編
 指揮：徳永正章 piano：久邇之宜
- IV シューベルト男声合唱曲集** 指揮：福永陽一郎 piano：久邇之宜
 alto: 内田多佳子
 ・Der Gondelfahrer ・Gott meine Zuversicht ・Nachthelle
 ・Die Nacht ・Standchen ・Widerspruch

部長：安徳 典光	会計：真鍋 健一	指揮者：徳永 正章
総務：吉本 雅一	sub-会計：角田 朋史	副指揮者：三宅 孝一
人事：三宅 孝一	庶務：武末 竜久	副指揮者：山蔭 直樹
M G：安藤 大祐	sub-庶務：大山 隆宏	PL-T1：城 保之亮
M G：森田 康弘	sub-庶務：角澤 淳行	PL-T2：瀧田 稔
sub-MG：安部 智昭	OB担当：岩谷 郷磨	PL-B1：牛嶋 昭
sub-MG：平野 祥司	Librarian：田染 勉	PL-B2：伊飼 康史
	Librarian：田中 架扇	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
清田 真二 (89)	川西 敏文 (89)	甲斐 竜治 (88)	中島 敦雄 (88)
城 保之亮 (89)	香田 知己 (89)	牛嶋 昭 (89)	伊飼 康史 (89)
徳永 正章 (89)	染川 康輔 (89)	古賀 洋 (89)	奈木野 治 (89)
馬場 啓介 (89)	高津 伸一 (89)	鈴木 久志 (89)	野口 雅裕 (89)
安藤 大祐 (90)	瀧田 稔 (89)	日高 泰治 (89)	馬場 一久 (89)
岩谷 郷磨 (90)	中山 誠一 (89)	秀島 慎也 (89)	御厨 一嘉 (89)
上杉 和也 (90)	野口啓太郎 (89)	嵩 豊 (90)	邑本 真司 (89)
岡部 康夫 (90)	藤野慶一郎 (89)	傳 喜臣 (90)	岡部 常道 (90)
藤川 裕介 (90)	武末 竜久 (90)	平島 周作 (90)	山本 幸伸 (90)
真鍋 健一 (90)	馬場 新二 (90)	森田 康弘 (90)	安部 智昭 (91)
角澤 淳行 (91)	三宅 孝一 (90)	吉村 憲一 (90)	池田 幸助 (91)
田中 邦典 (91)	山蔭 直樹 (90)	吉本 雅一 (90)	井上 重己 (91)
田中 幸雄 (91)	大庭 宏明 (91)	江頭 孝三 (91)	大山 隆宏 (91)
月成 重幸 (91)	角田 朋史 (91)	小嶋 真一 (91)	田辺 太記 (91)
中西 英 (91)	田染 勉 (91)	坂井 克英 (91)	馬場 秀樹 (91)
中村 将治 (91)	原田 郁夫 (91)	田中 架扇 (91)	船場 直宏 (91)
西田 正則 (91)	樋口 洋 (91)	日高 理 (91)	本田 哲也 (91)
馬場 清 (91)	平野 祥司 (91)	伊藤 隆二 (92)	望月 浩和 (91)
林田 一男 (91)	宮崎 和善 (91)	井上 道信 (92)	生方 一也 (92)
藤野 崇 (91)	山本 賢二 (91)	大羽 祐嗣 (92)	片淵 恵三 (92)
井筒 達夫 (92)	磯元 孝史 (92)	清原 昭憲 (92)	辛島 陽介 (92)
北方 普幸 (92)	伊藤 暢章 (92)	久保 稔 (92)	城戸 武広 (92)
田崎 勇 (92)	大田 昌克 (92)	重松 宏 (92)	木村 直嗣 (92)
田村 真 (92)	篠原 隆盛 (92)	長谷 憲道 (92)	杉岡 勝 (92)
中島 祐一 (92)	鈴川 栄嗣 (92)	西村 昌隆 (92)	関 智司 (92)
西山延一郎 (92)	瀬田 弘司 (92)	廣瀬 公典 (92)	中川 俊輝 (92)
藤尾 拓也 (92)	辻 政信 (92)	船橋 節男 (92)	藤本 裕人 (92)
森 隆行 (92)	野口 貴司 (92)	本田頭一郎 (92)	吉原 淳一 (92)
森田 浩一 (92)	萩原慶一郎 (92)	三木 博志 (92)	
山根 康則 (92)	原 裕一 (92)	吉武 義明 (92)	
	平野 隆己 (92)	渡邊 哲朗 (92)	
	福島 龍則 (92)		
	本村 亮 (92)		
	矢野 智史 (92)		



創立 70 周年 (1989 年度 : 昭和 63 ~ 平成元年) Seinan Gakuin Glee Club 100th anniversary

昭和63年12月の定期演奏会が終わると、恒例のクリスマス関連イベントで多忙であった。福岡女学院主催の「Messiah」演奏会を終えて迎えた新年、昭和64年は間もなく「平成」と元号が変わった。

3月17日松山商科大学(現・松山大学)とのジョイントが松山市民会館で開催された。2年前は福岡で我々はジョイントを開催、相互にホームステイをし、松山では商大グリーンメンのお世話で、演奏会前夜から松山観光を楽しんだ。

この1年を通して学院のチャペルサービスに努めた。6月は第22回福岡男声四大学合同演奏会に出演した。グリーンは福永陽一郎先生推奨のピアノ伴奏付「On Broadway」を演奏した。ミュージカル楽曲から選ばれた5曲で構成され、90期生が1年生当時定演のアンコールで歌った「Memory～Cats」が含まれた思い出深い曲である。合唱だけでなく、振付やポジション変えを行なう演奏スタイルで、本番までの練習はハードであったが、それだけに本番ではお客様と共に我々自身も十分に楽しむことができた。合同合唱は、九大コーラルアカデミーの常任指揮者であった藤井凡大氏の指揮で「ラテン」を歌った。この頃のグリーンはメンバーとパートバランスに恵まれ、迫力あるステージを持つことが出来た。

7月は「アジア太平洋博覧会“よかとピア”」関係のステージに2度出演した。その後は12月の定演に向け、強化練習を含め、ひたすら練習に励んだ。この年はグリーン創立70周年に当たるため、客演の福永先生は「自分のステージは全部アカペラ」と、前年の定演時から決めておられた。練習時には、曲の練習とは別に、佐々木 實先生によるボイストレーニングを取り入れた。定演直前の12月2日には、佐世保市民会館で演奏会を開き、満員の聴衆からの大きな拍手が定演への良い弾みとなった。

西南グリーン創立70周年記念第38回定期演奏会は、平成元年12月23日福岡サンパレスに満員の聴衆を集め開催された。緞帳が上がり「Ah, Seinan!」を歌いだした時の光景は今でも思い出す。福永陽一郎先生が第3ステージで男声合唱組曲「月光とピエロ」と、第5ステージで「Negro Spirituals」を指揮し、学生指揮者の山蔭直樹が、第1ステージ「中勘助の詩から」と第4ステージミュージカル「On Broadway」を



第22回福岡男声4大学合同演奏会 (1989.6.10)

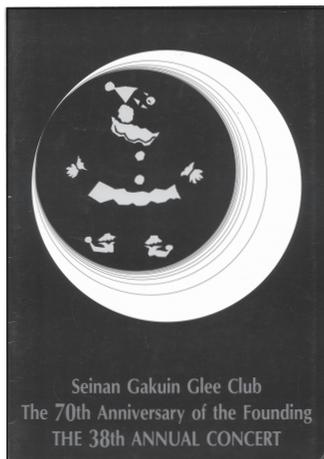


創立70周年記念第38回定期演奏会 第4ステージ ミュージカル「On Broadway」

指揮した。また、第2ステージは西南シャントウルが内海敬三氏(54期)の指揮で男声合唱組曲「緑深い故郷の村で」を歌い、華を添えていただいた。

そしてこの定期演奏会から、ふた月も経たない平成2年2月10日、突然に福永陽一郎先生の訃報がもたらされた。当時の役員をはじめとする有志で先生の弔問に出向かせてもらった。次年度の定期演奏会も先生のご指導のもとで行なえる、と誰もが信じていただけに先生のご逝去は俄かには信じ難く、我々は驚きを隠せない状況であった。先生亡き後の後輩グリーンメンの新たな取り組みの成功を祈りつつ卒業を迎えた。

記述者 山蔭 直樹
(90期)



210×297mm

主催：西南学院グリークラブ

後援：福岡県合唱連盟・朝日新聞社・FM福岡・KBC九州朝日放送・福岡市教育委員会

- I 男声合唱組曲「中勘助の詩から」 中勘助：詩 多田武彦：曲 指揮：山蔭直樹
・絵日傘 ・椿 ・四十雀 ・ほほじろの声 ・かもめ ・ふり売り ・追羽根
- II 賛助：西南シャントゥール 指揮：内海敬三
男声合唱組曲「緑深い故郷の村で」 伊藤 整：詩 三善 晃：曲
・春日 ・風 ・雨 ・壽に ・林檎園の六月
- III 男声合唱組曲「月光とピエロ」 堀口大学：詩 清水 脩：曲 指揮：福永陽一郎
・月夜 ・秋のピエロ ・ピエロ ・ピエロの嘆き
・月光とピエロとピエレットの唐草模様
- IV On Broadway William Stickles 他：編 指揮：山蔭直樹 piano：廣羽佐都子
・Summertime ~"Porgy And Bess" ・Some Enchanted Evening ~"South Pacific"
・I Could Have Danced All Night ~"My Fair Lady" ・Memory ~"Cats"
・Hello, Dolly! ~"Hello, Dolly!"
- V Negro Spirituals 福永陽一郎：編 指揮：福永陽一郎
・Deep river ・Honor! Honor! ・This ol' hammer! ・Mary's boy child Jesus Christ
・Ain'-a that a good news ・Soon-a will be done

部長：安徳 典光	庶務：角澤 淳行	指揮者：山蔭 直樹
総務：小嶋 真一	sub-庶務：片淵 恵三	副指揮者：大山 隆宏
人事：坂井 克英	sub-庶務：北方 普幸	副指揮者：田染 勉
M G：安部 智昭	OB担当：樋口 洋	副指揮者：田中 架扇
M G：平野 祥司	年表作成委員：船場 直宏	PL-T1：岡部 康夫
sub-MG：篠原 隆盛	年表作成委員：杉岡 勝	PL-T2：馬場 新二
sub-MG：関 智司	Librarian：磯元 孝史	PL-B1：嵩 豊
会計：角田 朋史	Librarian：重松 宏	PL-B2：岡部 常道
sub-会計：木村 直嗣		

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
安藤 大祐 (90)	武末 竜久 (90)	嵩 豊 (90)	岡部 常道 (90)
岩谷 郷磨 (90)	馬場 新二 (90)	傳 喜臣 (90)	山本 幸伸 (90)
岡部 康夫 (90)	三宅 孝一 (90)	平島 周作 (90)	安部 智昭 (91)
藤川 裕介 (90)	山蔭 直樹 (90)	森田 康弘 (90)	池田 幸助 (91)
真鍋 健一 (90)	大庭 宏明 (91)	吉村 憲一 (90)	井上 重己 (91)
角澤 淳行 (91)	角田 朋史 (91)	吉本 雅一 (90)	大山 隆宏 (91)
田中 邦典 (91)	田染 勉 (91)	江頭 孝三 (91)	田辺 太記 (91)
田中 幸雄 (91)	原田 郁夫 (91)	小嶋 真一 (91)	船場 直宏 (91)
月成 重幸 (91)	樋口 洋 (91)	坂井 克英 (91)	望月 浩和 (91)
中村 将治 (91)	平野 祥司 (91)	田中 架扇 (91)	生方 一也 (92)
西田 正則 (91)	宮崎 和善 (91)	日高 理 (91)	片淵 恵三 (92)
林田 一男 (91)	山本 賢二 (91)	久保 稔 (92)	辛島 陽介 (92)
馬場 清 (91)	磯元 孝史 (92)	重松 宏 (92)	木村 直嗣 (92)
井筒 達夫 (92)	伊藤 暢章 (92)	長谷 憲道 (92)	杉岡 勝 (92)
北方 普幸 (92)	篠原 隆盛 (92)	西村 昌隆 (92)	関 智司 (92)
田村 真 (92)	野口 貴司 (92)	廣瀬 公典 (92)	中川 俊輝 (92)
藤尾 拓也 (92)	原 裕一 (92)	本田 顕一郎 (92)	藤本 裕人 (92)
森田 浩一 (92)	福島 龍則 (92)	三木 博志 (92)	吉原 淳一 (92)
石田 悦嗣 (93)	本村 亮 (92)	吉武 義明 (92)	上村 裕司 (93)
石丸 貴康 (93)	伊東 宗隆 (93)	渡邊 哲朗 (92)	末延 栄吾 (93)
古城 彰義 (93)	小田 泰資 (93)	岡本 幸男 (93)	杉山 信幸 (93)
下川 桂 (93)	高田 洋 (93)	奥園 修三 (93)	田村 祐一 (93)
白水 浩良 (93)	中村 彰則 (93)	川野 誠 (93)	津田 健司 (93)
遠藤 孝雄 (93)	野村 和彦 (93)	福原 勲 (93)	古川 忠彦 (93)
高瀬 康治 (93)	長谷川 仁 (93)	溝口 淳二 (93)	
恒成 卓哉 (93)	安松 良知 (93)	渡辺 雅史 (93)	
戸山 裕士 (93)	渡辺 誠吾 (93)	和田 義之 (93)	
長澤 幹也 (93)			



「巨星落つ」… 福永陽一郎先生逝去の報は、寒さが残る2月初めの夜の油山にも届けられた。新体制での最初の活動「春季強化合宿」、新しい部の団結とハーモニーを固めるために皆が練習に取り組んでいた矢先の訃報だった。翌朝そのことが全部員に伝えられると、皆言葉を失った。西南グリーは福永先生と共にあった。先生を拠り所に、そして舵取りの道標として。むしろ「頼ってきた」という言葉の方が適するかも知れない。私たちは文字通り「星」を失った。

3月には恒例の関学グリーとのジョイントを控えていた。「九州に西南あり」と、彼等に印象づけたかった。西南グリーは多田武彦の「富士山」、関学は「Sea Chanties」と「草野心平の詩から」を演奏し、合同ステージでは「ロバート・ショウ・コーラスアルバム」を演奏した。「今年の定演のために…」全ての活動は定演に繋がっており、スケールの大きな「富士山」にするために4月の新入部員勧誘は20名以上を目標にした。(その年の定演パンフには108名の名前が連なっている。)それだけのメンバーが居たこと自体が幸せなことであったかもしれない。

6月の福岡男声四大学合同演奏会、グリーは「THE WESTERN NOSTALGIA」を歌った。福永先生編曲のアメリカ民謡である。西部開拓時代の雰囲気を出すべく、衣装もシャツ、ジーパンにバンダナとカウボーイ・スタイルを決め込み、ギターとアコーディオン、コントラバスを加えた見た目にも楽しいステージを演出した。合同演奏は西川昌宏氏の指揮で石井歓作曲の「枯木と太陽の歌」であった。

第39回定期演奏会の客演指揮者を関屋晋先生にお願いすることに決めたのは3月であった。ここでも福永先生の奥様(暁子さま)に、とりわけお世話になった。暗闇の中に一筋の光が差したという気持であった。しかし、三善 晃作曲の「男声合唱とピアノのための『三つの時刻』」は、噛み砕き、消化するまでに大変な時間とエネルギーを費やした。最初は詩の意味がよく理解できず、今まで味わったことの無いぶつかりの和音が幾つも出てきて、本当に自分たちの音が合っているのかさえ分からなかった。また、G. マーラーの「さすらう若人の歌」は、私達にとっては初の本格的なドイツ語の曲であり、学業よりもクラブ活動にのめり込み、練習以外でも曲の解釈のための資料集めやオーディションに励んだ。今に思えば、よくあれだけの曲を暗譜でこなしたものだと思う。

12月15日、福岡サンパレスでの本番では、関屋先生は小柄ながらも、そのオーラで私達の潜在的なパワーを存分に引き出してくれた。ピアノ伴奏は久邇之宣先生であった。この年の定演のプログラムは関屋先生の前述の二ステージの他に、学生指揮者 田中架扇(91期)の指揮による「富士山」、「THE WESTERN NOSTALGIA」に加え、福永陽一郎先生追悼ステージとして「Negro Spirituals」を演奏した。



アメリカ演奏旅行 ミドルテネシー州立大学
WRIGT MUSIC ホール前にて('88.3.10)

私たちの中では「陽ちゃん(親しみを込めて、こう呼んでいた)」と言えば、「Negro Spirituals」だった。

「ひよろひよろとした腕の独特なタクト裁き」を私達は心に思い浮かべながら、そして目には涙を浮かべながら、しかし歌声が絶対に泣き声に変わらぬように心を込めて歌った。

「福永先生、ありがとうございます。安らかにお眠り下さい」と…。

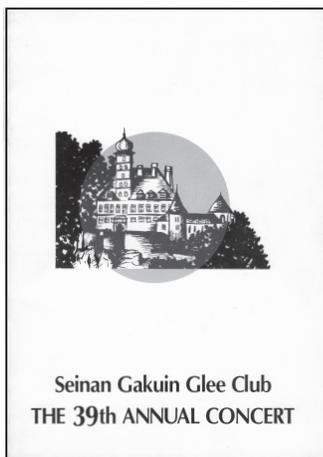
記述者 宮崎 和善(91期)



福永陽一郎追悼演奏会「陽ちゃんといっしょ」('91.2.10)



第31回定期演奏会('90.12.15)



210×297mm

- I 男声合唱組曲「富士山」 草野心平：詩 多田武彦：曲 指揮：田中架扇
 ・作品第壹 ・作品第肆 ・作品第拾陸 ・作品第拾捌 ・作品第貳拾壹 (宇宙線富士)
- II 男声合唱とピアノのための「三つの時刻」 丸山 薫：詩 三善 晃：曲
 ・薔薇よ ・午後 ・松よ 指揮：関屋 晋 piano：久邇之宜
- III The Western Nostalgia 福永陽一郎：編 指揮：田中架扇
 acordione：山口佳恵 contrabass：岩城千穂 guitarist：安部智昭
 ・Oh, Bury Me Not On The Lone Prairie! ・Doney Gal ・The Street Of Laredo
 ・Poor Lonesome Cowboy ・Colorado Trail ・Cool Water ・Home On The Range
- IV Negro Spirituals (福永陽一郎先生追悼) 福永陽一郎：編 指揮：田中架扇
 ・Deep River ・Steal Away To Jesus ・Ride The Chariot ・Go Down Moses
- V さすらう若人の歌 Gustav Mahler：曲 福永陽一郎：編
 指揮：関屋 晋 piano：久邇之宜
 ・君が嫁ぐ日 ・露しげき朝の野辺に ・灼熱せる短刀もて ・君が青きひとみ

主催：西南学院グリークラブ 後援：福岡県合唱連盟・朝日新聞社・FM 福岡・KBC 九州朝日放送・福岡市教育委員会

部長：安徳 典光	会計：木村 直嗣	指揮者：田中 架扇
	sub-会計：長谷川 仁	副指揮者：磯元 孝史
	庶務：片渕 恵三	副指揮者：重松 宏
総務：筒井 達夫	sub-庶務：奥園 修三	PL-T1：西田 正則
人事：藤本 裕人	sub-庶務：野村 和彦	PL-T2：宮崎 和善
M G：篠原 隆盛	OB担当：杉岡 勝	PL-B1：日高 理
sub-MG：中村 彰則	Librarian：石丸 貴康	PL-B2：田辺 太記
sub-MG：溝口 淳二	Librarian：下川 桂	

TOP TENOR	SECOND TENOR	BARITONE	BASS
角澤 淳行 (91)	大庭 宏明 (91)	江頭 孝三 (91)	安部 智昭 (91)
田中 幸雄 (91)	角田 朋史 (91)	小嶋 真一 (91)	池田 幸助 (91)
月成 重幸 (91)	田染 勉 (91)	坂井 克英 (91)	井上 重己 (91)
中村 将治 (91)	原田 郁夫 (91)	田中 架扇 (91)	大山 隆宏 (91)
西田 正則 (91)	樋口 洋 (91)	日高 理 (91)	田辺 太記 (91)
井筒 達夫 (92)	平野 祥司 (91)	久保 稔 (92)	船場 直宏 (91)
北方 普幸 (92)	宮崎 和善 (91)	重松 宏 (92)	生方 一也 (92)
藤尾 拓也 (92)	山本 賢二 (91)	長谷 憲道 (92)	片渕 恵三 (92)
森田 浩一 (92)	磯元 孝史 (92)	廣瀬 公典 (92)	辛島 陽介 (92)
石田 悦嗣 (93)	伊藤 暢章 (92)	本田 顕一郎 (92)	木村 直嗣 (92)
石丸 貴康 (93)	篠原 隆盛 (92)	三木 博志 (92)	杉岡 勝 (92)
下川 桂 (93)	原 裕一 (92)	吉武 義明 (92)	藤本 裕人 (92)
進藤 孝雄 (93)	福島 龍則 (92)	渡邊 哲朗 (92)	吉原 淳一 (92)
高瀬 康治 (93)	本村 亮 (92)	岡本 幸男 (93)	杉山 信幸 (93)
恒成 卓哉 (93)	伊東 宗隆 (93)	奥園 修三 (93)	田村 祐一 (93)
戸山 裕士 (93)	小田 泰資 (93)	溝口 淳二 (93)	古川 忠彦 (93)
長澤 幹也 (93)	高田 洋 (93)	石原 円 (94)	岩下 暢彦 (94)
大山 輝久 (94)	中村 彰則 (93)	浦野 典人 (94)	北村 知己 (94)
柿塚 一郎 (94)	野村 和彦 (93)	江頭 宏隆 (94)	原田 竜也 (94)
高島 祐介 (94)	長谷川 仁 (93)	佐野 直人 (94)	平尾 和寿 (94)
増崎 一茂 (94)	渡辺 誠吾 (93)	柴田 信英 (94)	松田 勝彦 (94)
松永 俊 (94)	梅崎 勝雅 (94)	白石 修 (94)	森本 宏 (94)
向井 弘一 (94)	川越 洋二 (94)	村田 実 (94)	矢田 健 (94)
横田 啓明 (94)	園田 英喜 (94)	山本 尚宏 (94)	山田 達也 (94)
	田町 大輔 (94)	渡邊 利夫 (94)	
	徳永 栄三 (94)		
	永江 栄俊 (94)		
	藤田 和徳 (94)		
	丸谷 紀之 (94)		
	湯本 武志 (94)		
	和合 泰志 (94)		



これまで当たり前のようにグリーの定演を指揮して戴いていた福永陽一郎先生を失い、新体制に入った私達は来年の第40回定演の指揮を、今年に引き続き関谷晋先生にお願いすべく働きかけたが、先生のスケジュール調整がつかず、いきなり暗礁に乗り上げました。

紆余曲折の末、年明けにやっと北村協一先生にご快諾いただきホッとしたことを覚えています。

平成3年を迎えての最初の行事は2月に東京で開催される、福永陽一郎先生の追悼演奏会「陽ちゃんといっしょ」への参加でした。前年から東京で打合せを行い、グリーは全員で参加しました。単独ステージでは東京在住のOBの方々と合同で「Go Down Moses」と「さよならね」を演奏しました。またこの年に予定していたアメリカ演奏旅行は、湾岸戦争の煽りを受けて中止せざるを得ず、グリーにとっては残念な結果となりました。

新学期に入り、新入部員を勧誘(強引に)したグリーは、音楽だけではないことを学内に知らしめるべく、日夜ソフトボールの練習と飲み会に明け暮れ、フラウエンコールの黄色い声援に励まされて、その年の大会で優勝しました。

第24回福岡男声四大学合同演奏会は、客演に北村協一先生を迎えて開催、グリーは福永陽一郎編曲の「イギリス民謡」を演奏、合同は多田武彦作曲の「尾崎喜八の詩から」を演奏しました。北村先生のご指導では、福永先生とは違う合唱の組み立て方に、厳しさと音に対する精密さが要求されることを体感しました。定演までの間は、外部出演(お座敷)や学内諸行事で演奏会を務めました。

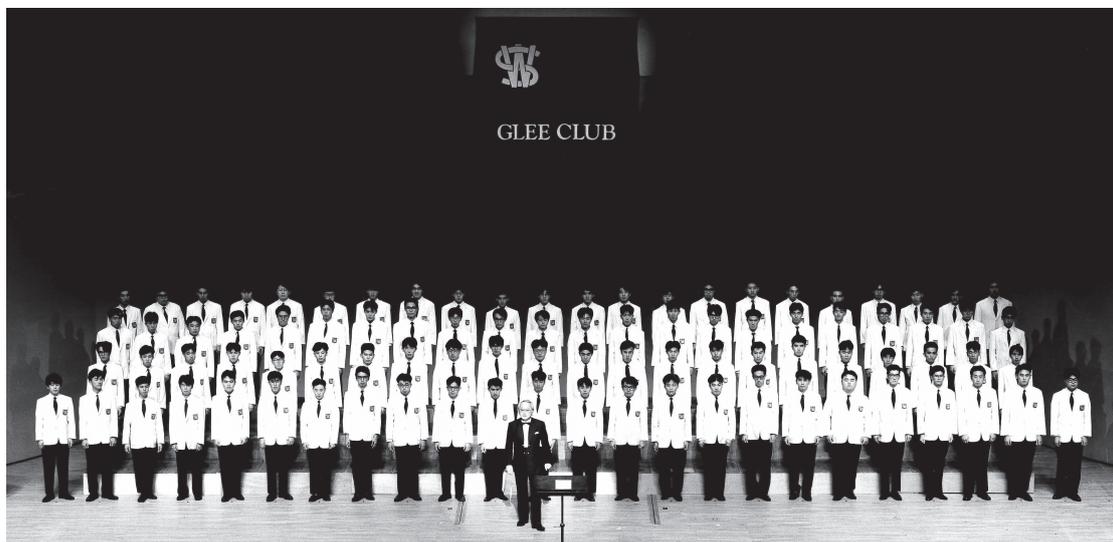
そしていよいよ**第40回定期演奏会**を迎える訳ですが、北村先生が客演に決まり曲目が伝えられた瞬間、愕然としたことを記憶しています。選曲されたのは1ステージ目にミサ曲、そして最終ステージには、な、何と「ことばあそびうたⅡ」だったのです。その日から楽譜との格闘が始まり、技術系の役員も並々ならぬ努力を強いられました。西南会館6階には、「かっぱかっぱらった〜」「さるさらうささらさるう」等、訳の分からぬ歌声が溢れ、学文会の学生達からは白い眼差しを受けました。とにかく先生のレッスンが始まるまでには、ある程度のところまでは作り上げておこうとの一心で練習に励みました。



北村協一氏

北村先生の最初のレッスンは、ミサ曲から行われましたが、休憩時間に先生から「西南って偏差値いくつ?」と聞かれ、慌てた技術系の役員は更に部員に拍車をかけるべく猛練習を重ねましたが、「ことばあそびうたⅡ」の先生のレッスンでは、余りの出来の悪さに途中で練習打ち切りとなり、ピアノの久邇先生から「やばいぞ! 北村先生は以前あまりの出来の悪さに、指揮を断ったことがあるんだよ。」と言われ、その場に緊張が走りました。その後更に猛練習が日々続き、その甲斐あってか平成3年12月7日、西南シャントウールの賛助を得て福岡サンパレスで開催した第40回定期演奏会では、「素晴らしい演奏だった」と諸先輩方からもお褒めの言葉を頂くことができました。

記述者 篠原 隆盛(92期)



第40回定期演奏会 客演指揮:北村協一